山梨県韮崎市発掘調査報告書

三百水遺跡発掘調査報告書

造成工事に伴う緊急発掘調査報告書

2011.3

韮崎市土地開発公社
韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市発掘調査報告書

三百水遺跡発掘調査報告書

造成工事に伴う緊急発掘調査報告書

２０１１．３

韮崎市土地開発公社
韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　文

韮崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡やその関連性のある武田八幡宮、白山城跡、能見城跡や願成寺があり、また、治水遺構として、御勅使川旧堤防跡（将棋頭）など、枚挙に暇のないほどであります。

韮崎市の東部に広がる穂坂台地には穂坂牧の伝承や土偶を大量に出土した女夫石遺跡などがあります。この度の調査対象となった三百水遺跡は、過去に調査経過がなく、その詳細については把握されておりませんでした。今回の調査により、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代終末から弥生時代初期の竪穴建物跡などが確認され、先人達の土地利用の一端を知ることができました。

調査地は調査終了後に、造成工事が行われましたが、事業者をはじめとする関係者のご理解とご協力のなかで、記録保存され、本書の刊行となりました。

このような調査の積み重ねにより、地域の過去が解き明かされていくことと思います。

調査にあたり、ご理解をいただきました事業者の方をはじめ関係者の皆様方へ感謝申し上げます。

韮崎市遺跡調査会
事務局長　輿水　豊

例　　言

1　本書は韮崎市穂坂町に所在する三百水遺跡における土地開発行為に伴う緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査ならびに、整理作業は韮崎市教育委員会監理のもと、韮崎市土地開発公社から調査に関する委託を受けた韮崎市遺跡調査会で実施した。

3　発掘調査、整理作業および本書の編集・執筆は韮崎市遺跡調査会の閏間俊明が担当した。

4　本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会において保管されている。

5　組織

韮崎市遺跡調査会

事務局長:輿水豊　課長:横森貢(前任:雨宮正巳)　課長補佐:山下孝司　リーダー:伊藤保昭　担当:閏間俊明

6　発掘調査ならびに報告書の作成にあたり、多くの方々・諸機関から協力をえました。記して感謝いたします。(順不同)

中山誠二・佐野隆・阿部由美子・石原ひろみ・小野初美・上野理江・清水裕子・土屋啓子・深沢真知子・角田勇雄・輿石邦次・清水征二・小幡敬一・中山汎丘・堀内万寿吊・藤森芳雄・依田信一・小林重夫・渡部義明・野村六二郎・長田幸成・小泉践一・山梨県教育委員会・山梨県立博物館・㈳峡北広域シルバー人材センター

目　　次

序　文
例　言
目　次

第１章　調査経過……1
第２章　遺跡の環境……1
第３章　出土した遺構と遺物……1
第４章　まとめと課題……4

図　版

第１章　調査経緯と経過

周知の埋蔵文化財包蔵地である三百水遺跡で土地区画整備計画があり、韮崎市土地開発公社から文化財保護法第93条に関わる届出があった。市教委では、埋蔵文化財包蔵地であるものの、遺存状況については未把握であることから、試掘調査が必要であることを意見として山梨県教育委員会に経由進達をおこなった。その後、山梨県教育委員会から試掘調査の指示が事業者にあり、韮崎市教育委員会では事業者と協議をおこない、試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物が検出された。

試掘調査の結果を受け、市教委と韮崎市土地開発公社で協議をおこない、現状での遺跡を保存することが困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなり、調査は韮崎市教育委員会監督のもと、韮崎市遺跡調査会が実施することとなった。

第２章　遺跡の環境

三百水遺跡は茅ヶ岳の裾野、穂坂台地上の標高420m前後に所在する。北側と南側の沢地形挟まれた比較的狭い舌状台地である。周辺の発掘調査としては、中央自動車道韮崎インターチェンジ建設に伴う発掘調査が実施されているが、この際には遺構等が確認されていない。近年では、本遺跡よりも北東方向600m程の権現沢川沿いの女夫石遺跡において調査が実施され、縄文時代中期の住居跡群及び土偶をはじめとする当時の道具の廃棄場が確認された。また、「巾」という織物との関連性のある平安時代の墨書土器が出土している。

第３章　出土した遺構と遺物

第１節　旧石器時代（第27図）

５号溝周辺のローム層中から黒曜石製の二側縁加工を施した切出形ナイフ形石器（第27図 CH １-１）が出土した。

第２節　縄文時代（第７～13・16～26図）

竪穴状遺構が検出された。掘り込み面での平面プランを参考に３軒の重複を想定したが、土層観察からはその関係は不明瞭であった。

１）１号竪穴状遺構（TA1）

長軸6.5m、短軸5.0mの隅丸方形の平面形態である。竪穴の壁から0.5～1.5m の範囲の床面は平坦もしくは緩やかな傾斜をしているが、さらに竪穴の内側では傾斜がきつくなる。貼り床となるような硬化面は検出されていない。竪穴内の北東部分でピットが確認された。

竪穴内の覆土の堆積状況は、いわゆるレンズ状堆積である。２層とした暗黒褐色土から下の層で土器などの遺物が多く検出された。

出土遺物は浮線文・条痕文系の土器と、横刃形石器（TA1-20～23）、磨石（TA1-24）、礫器（TA１-26）などの石器である。

２）２号竪穴状遺構（TA2）

長軸8.2m、短軸5.8mの卵型の平面形態である。東側は１号竪穴状遺構と重複し、土層観察をおこなったが明確に捉えることができず、その時間的な前後関係は不明である。北側と東側の壁はやや深く立ち上がるが、南側は竪穴内の中央部から緩やかに傾斜し、南側の壁に到達する。壁及び竪穴内の底面の一部には地山に含まれる岩が見られる。

竪穴内の覆土の堆積状況は、いわゆるレンズ状堆積である。３a 層とした層よりも下の層から土器などの遺物が出土し、量的には１号竪穴状遺構よりも多い。

出土遺物は浮線文・条痕文系の土器と、横刃形石器（TA2-48～52）、打製石斧（TA2-53～59）、

磨石（TA2-62）、凹石（TA2-63）などの石器である。

3）3号竪穴状遺構（TA3）

1号竪穴状遺構の南東部分と2号竪穴状遺構の南西部分の間に、扇形に黒色土を含む浅い掘り込みをもった遺構である。遺物の出土は少ないが、遺構内の堆積土は1・2号竪穴状遺構と類似していることから、同時期の遺構と考えられる。

今回の調査では、竪穴の底面の立ち上がりや平面形態などにより3遺構として捉えたが、いずれも時間差を特定したものではなく、一つの遺構の中のバリエーションの可能性が残ることを指摘しておきたい。この時期の竪穴状遺構の検出例は少なく、今後の資料の増加をまって、再検証が必要と考えられる。

第3節　中世以降（第14～15・27・28図）

1）ピット

暗褐色土を覆土としたピットが調査区西側で48基を検出した。特に、1～27号ピットまでは比較的まとまっていることから、掘立柱建物跡の可能性がある。このピットの集中部からやや東側に離れた地点で、16世紀末に流通する連弁文の青磁碗の破片が出土している。

2）溝跡

東西方向に走る溝が確認されている。調査の便宜上、複数の溝跡として取り扱ったが、全体を見渡してみると、概ね並行する2条の溝で構成されている。いずれの溝跡からも明確に時期を示す遺物の出土はないものの、古代から近世にかけての遺物が覆土に含まれており、埋没年代は近世段階の可能性が高いが、掘削時期については不明である。なお、明治時代の分間図にもこの溝と関連するような区画を確認することはできなかった。

1号溝跡

幅約1.8m、深さ約30cmだが、最低1回の掘り直しがされている。

2号溝跡

1号溝と平行し、南側を走る溝跡である。5号溝と直接つながっていないが、本来一連の溝であった可能性が高い。幅約2.4m、深さ40cmで、複数回の掘り直しがされている。溝の途中で石積みがされている。東側と南側部分に石を2段程度に積み上げている。この石積み部分を境にして、東側の溝は浅くなる。東端部分は3号溝と重複し、2号溝は新しい。東端の溝の基点となる場所には礫1点を確認した。本溝以外にも溝の基点となる位置に礫を確認した溝があることから意図的に置かれた可能性がある。

3号溝跡

2号溝とほぼ直行する。3号溝が掘削された際にはすでに2号溝には覆土が堆積した状況であることが堆積状況の観察で確認された。溝底は箱掘状であり、幅約40cm、深さ約30cmである。

4号溝跡

長さ約16m、幅約1.2mで5号溝と平行している。

5号溝

2号溝のほぼ延長線上にあり、4号溝と平行し、東端で南側にほぼ直角に曲がる。第15図に示したとおり、3段の段差を認めることができる。また、南側に折れた部分に平行して10号溝が掘削されている。

本溝と直接関係しないが、ナイフ形石器が隣接して出土している。

6号溝

長さ約6.5m、幅約0.6mで東西方向に長い溝である。5号溝と同様に底面に段差を認めることができる。調査区を横切る道によって切られているが、15号溝とつながるものと考えられる。また、11号

溝とも直線的につながる位置関係にあり、５号溝とも関連を想定できる。

７号溝

長さ約6.5m、幅約0.8mで東西方向に長い溝であり、若干湾曲部分が認められる。また、13号溝とも直線的な位置関係にある。

８号溝

長さ約５m、幅約0.9mで東西方向に長い溝である。調査区を横切る道によって寸断されているが、16号溝につながるものと考えられる。14号溝と直線的な位置関係にある。

９号溝

長さ約12m、幅約0.8mで東西方向に長い２号溝と平行する溝で、西端で北側へ若干湾曲する。東端の基点部には礫１点が出土した。

10号溝

長さ約5.2m、幅約１mで南北方向に長い溝である。５号溝の東端で南側に屈曲した溝と平行し、北端が西側へ折れており、本来は５号溝と合流していたものと考えられる。

11号溝

長さ約7.5m、幅約1.2mで東西方向に長い溝で、11～14号溝は平行する。５・６号溝と同様に底面に段差を認めることができる。６号溝と直線的につながる位置関係にあり、５号溝とも関連を想定できる。

12号溝

長さ約16.3m、幅約0.8mで東西方向に長い溝で、11～14号溝は平行する。

13号溝

長さ約13m、幅約0.8mで東西方向に長い溝で、11～14号溝は平行する。７号溝と直線的な位置関係にある。

14号溝

長さ約８m、幅約0.4mで東西方向に長い溝で、11～14号溝は平行する。８号溝と直線的な位置関係にある。

15号溝

長さ約３m、幅約0.4mで東西方向に長い溝である。

16号溝

長さ約３m、幅約0.6mで東西方向に長い溝である。

17号溝

長さ約5.3m、幅約0.4mで東西方向に長い溝である。16・18・19号溝と直線的な位置関係にある。

18号溝

長さ約6.2m、幅約0.7mで東西方向に長い溝で、19号溝と平行し、17号溝と直線的な位置関係にある。

19号溝

長さ約9.5m、幅約0.6mで東西方向に長い溝で、18号溝と平行し、17号溝と直線的な位置関係にある。

20号溝

長さ約22.2m、幅約0.8mで東西方向に長い溝で、やや南側に湾曲する。21号溝と平行する。

21号溝

長さ約34.2m、幅約1.2mで東西方向に長い溝で、20号溝と同様に南側にやや湾曲する。５号溝と同様に底面に段差を認めることができる。

22号溝

長さ約9.3m、幅約0.4mで他の溝と方向、幅や覆土が異なる。

第４章　まとめと課題

今回の調査では、中世以降の溝とピット及び縄文時代晩期から弥生時代にかけての竪穴状遺構などを調査することができた。検出された遺構・遺物についてまとめを述べておく。

(中世以降の遺構等について)

検出された溝からは、時期を確実に特定できる状況での遺物は出土せず、平安時代から近世の遺物が覆土から出土したのみである。検出当初は比較的新しい時代の遺構とも想定したが、土地の所有者等に聞取りをしたところ、少なくとも70年前には溝は存在しなかったようである。また、明治期の分間図においても今回確認した溝と関連するような区画を認めることはできなかった。このことから、近世段階にまで遡るものと考えられるが、溝の掘削された時期については判断し得えず、その目的に迫る資料を検出するには至っていない。溝跡の通る地点は沢地形に挟まれた台地の中央部であることと、本遺跡の所在する穂坂台地が水に貧窮する地域であった歴史的・地形的な背景から考えると、水路として作られた可能性が高いものと考えられる。また、大きく２本の溝が平行に走ると捉えることができる、道の側溝として作られた道路遺構の一部である可能性も残る。

また、ピットについては、建物跡を想定できるが具体的な規模を把握までには至っていない。ピットの覆土から出土遺物が皆無なことから時期の特定はできないが、ピットの検出されている調査区東側では、16世紀末に流通する連弁文の青磁碗が出土している。青磁碗が当時において高価なものであったことから、耕作地での使用後の廃棄は考えにくく、居住空間の存在が考えられる。遺物が少なく、共伴することが確実とはいえないが、ピット群が居住空間と関連する可能性のあることを指摘しておく。

(縄文時代晩期から弥生時代初頭の遺構等について)

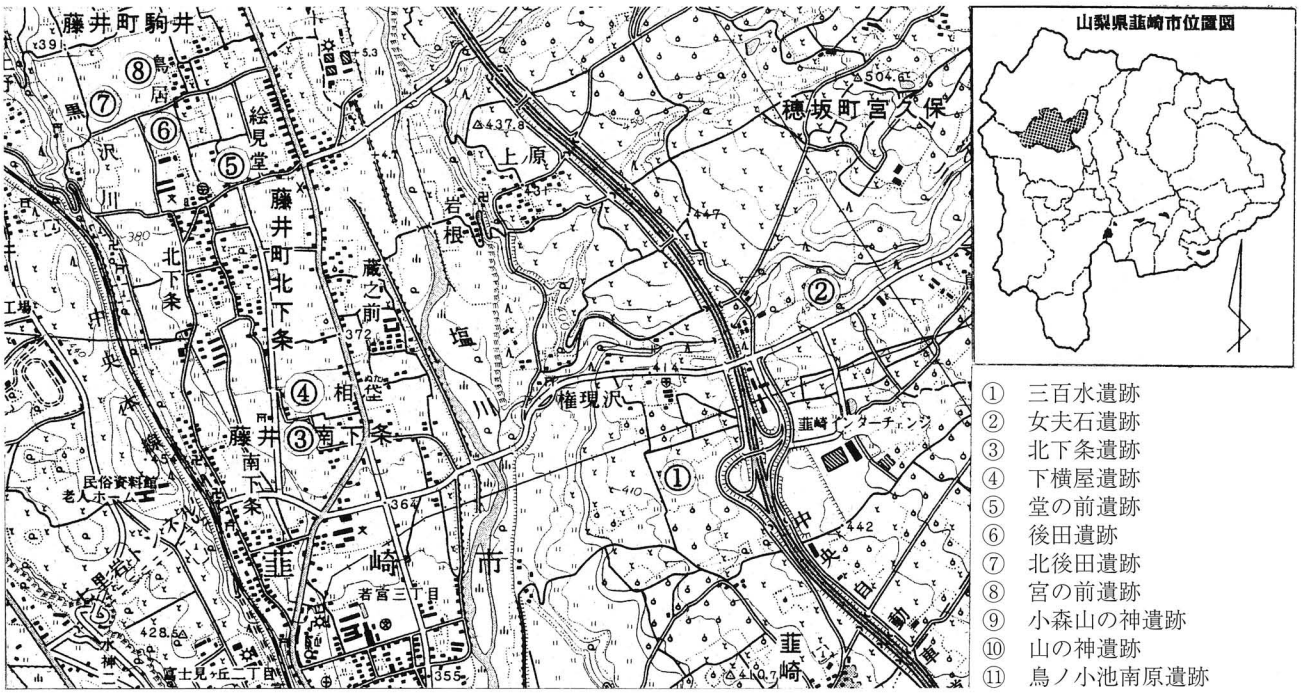
３基の竪穴状遺構を検出している。前章で報告したとおり、３基の竪穴状遺構としたが、明瞭に重複関係が把握されたわけではなく、遺構内への堆積土も極めて類似していることから、３基としたものが一つの竪穴状遺構の可能性もある。この時期の遺構の確認例は少ない。本遺跡よりも前段階では、金生遺跡（北杜市）では方形周石住居跡が確認されている。ほぼ同時期では上手沢遺跡（韮崎市）で、長軸5.6m・短軸5.2mの隅丸方形の竪穴建物跡が検出されている。本遺跡の竪穴建物跡はいずれの遺構とも類似点が見出しがたく、今後の資料の増加をまって、再検証が必要と考えられる。

この時期が穀物の栽培もしくは農耕の成立にからむことから、石器については使用痕の分析を視野に入れ、分析対象となる痕跡の残存の有無について山梨県立博物館に確認を依頼したが、その結果、残存しておらず、使用痕の分析にはいたらなかった。しかしながら、未分析ではあるが種子と考えられる痕跡を観察できる土器片が数点出土している。このような資料のさらなる分析により、当該地域の食料獲得に関わる生業について検討する一資料となりえよう。

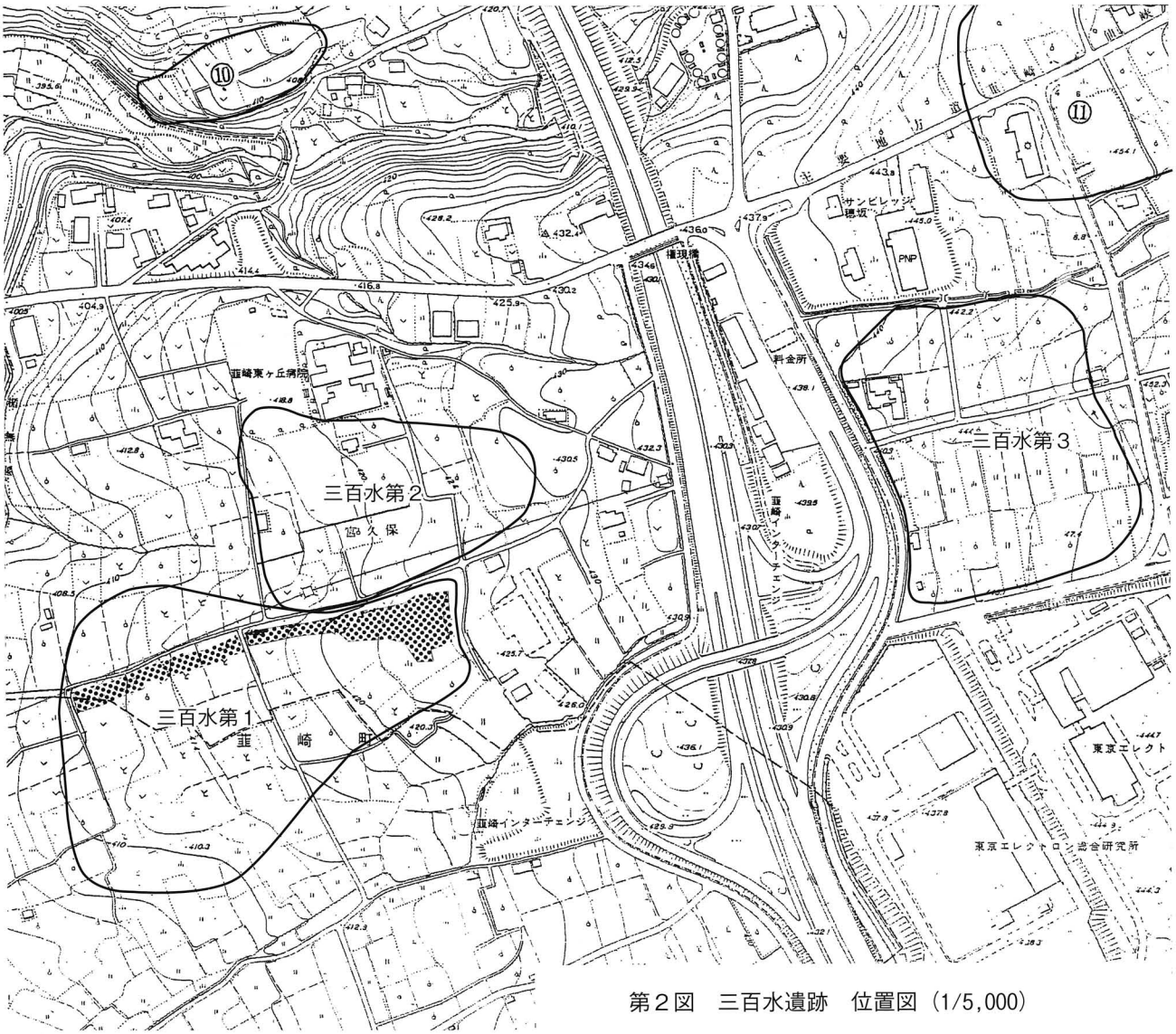
出土土器では、浮線文系の土器が出土しているものの、条痕文系の土器が圧倒的に多い。

(ナイフ形石器について)

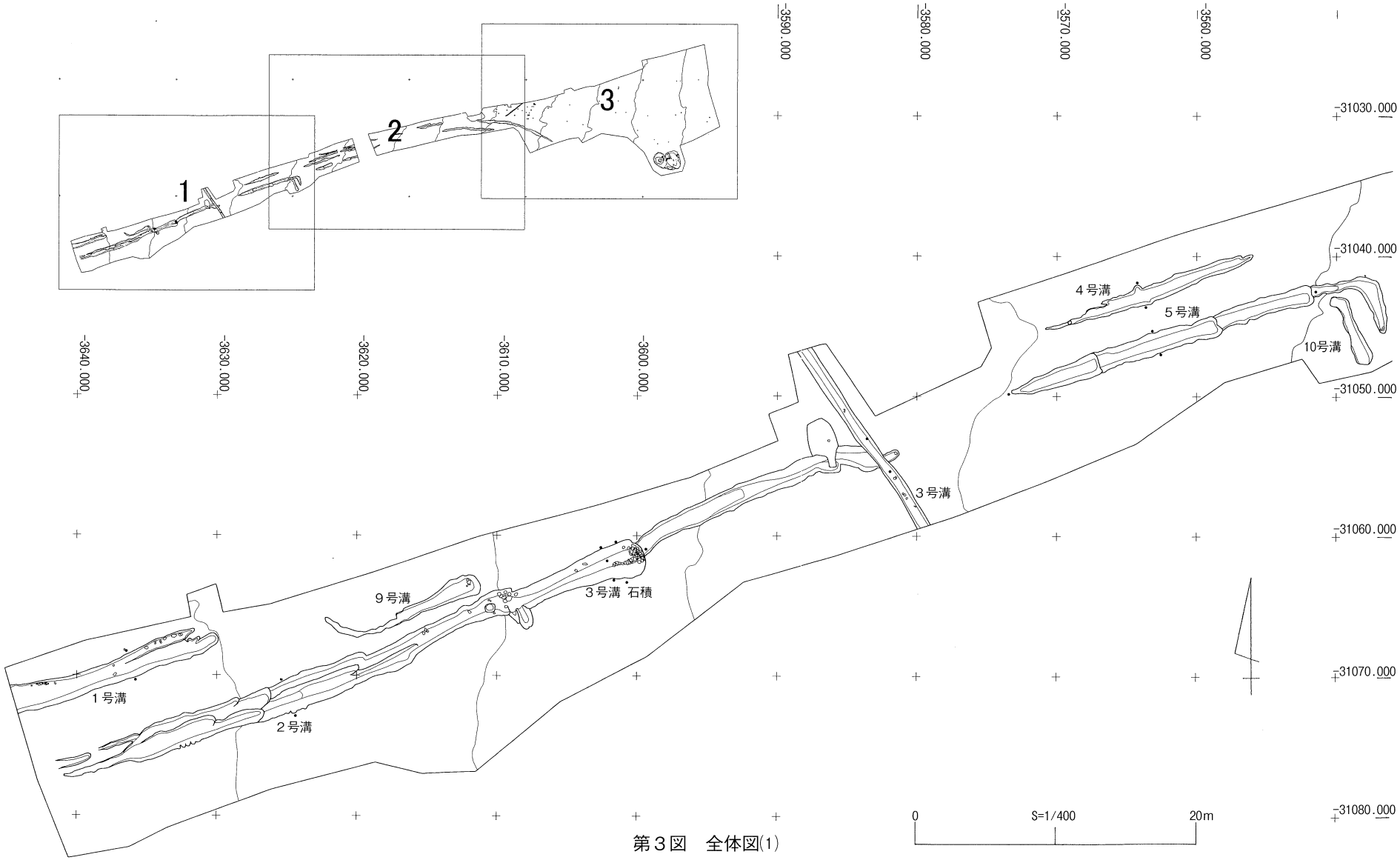
本市では旧石器時代の遺物の出土は少なく、ローム層からの出土はこれまでなかった。本遺跡から出土したナイフ形石器は、切出形のナイフ形石器であることから、立石遺跡第Ⅰ文化層と対比されるものと考えられ、武蔵野台地ではⅤ～Ⅵ層下部、相模野台地ではＢ２Ｌ～Ｂ２Ｕ層で出土する石器群との関連性を想定できる。今回の出土はローム層にパックされた状態での出土であることから、このローム層の形成年代を検討する上で重要な発見であったといえる。今後は、火山灰の分析などを含めて、ローム層の年代の推定をおこない、石器の型式とローム層の年代の比較をおこなっていくことが必要となってこよう。



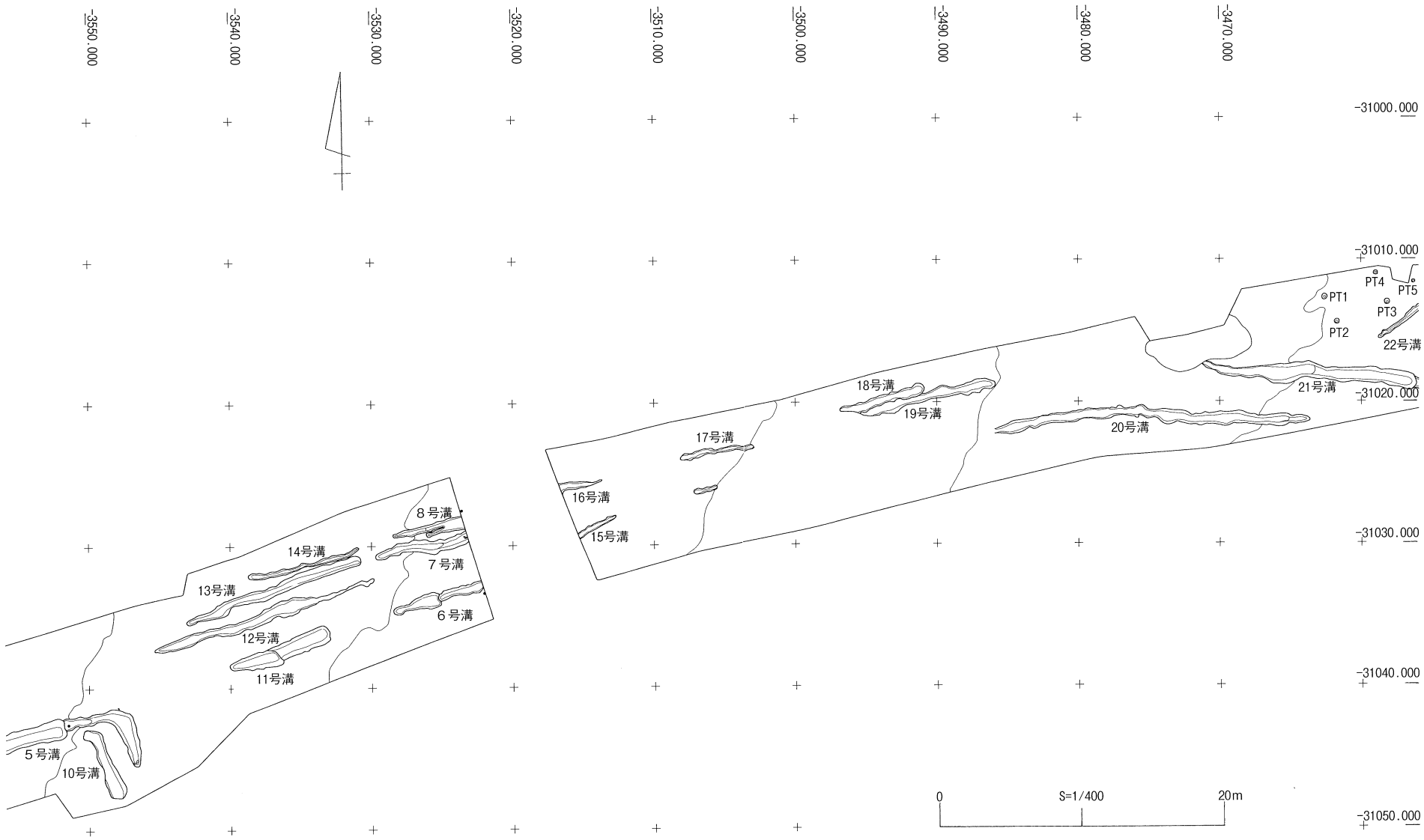
第１図　三百水遺跡と周辺の遺跡（1/80,000）



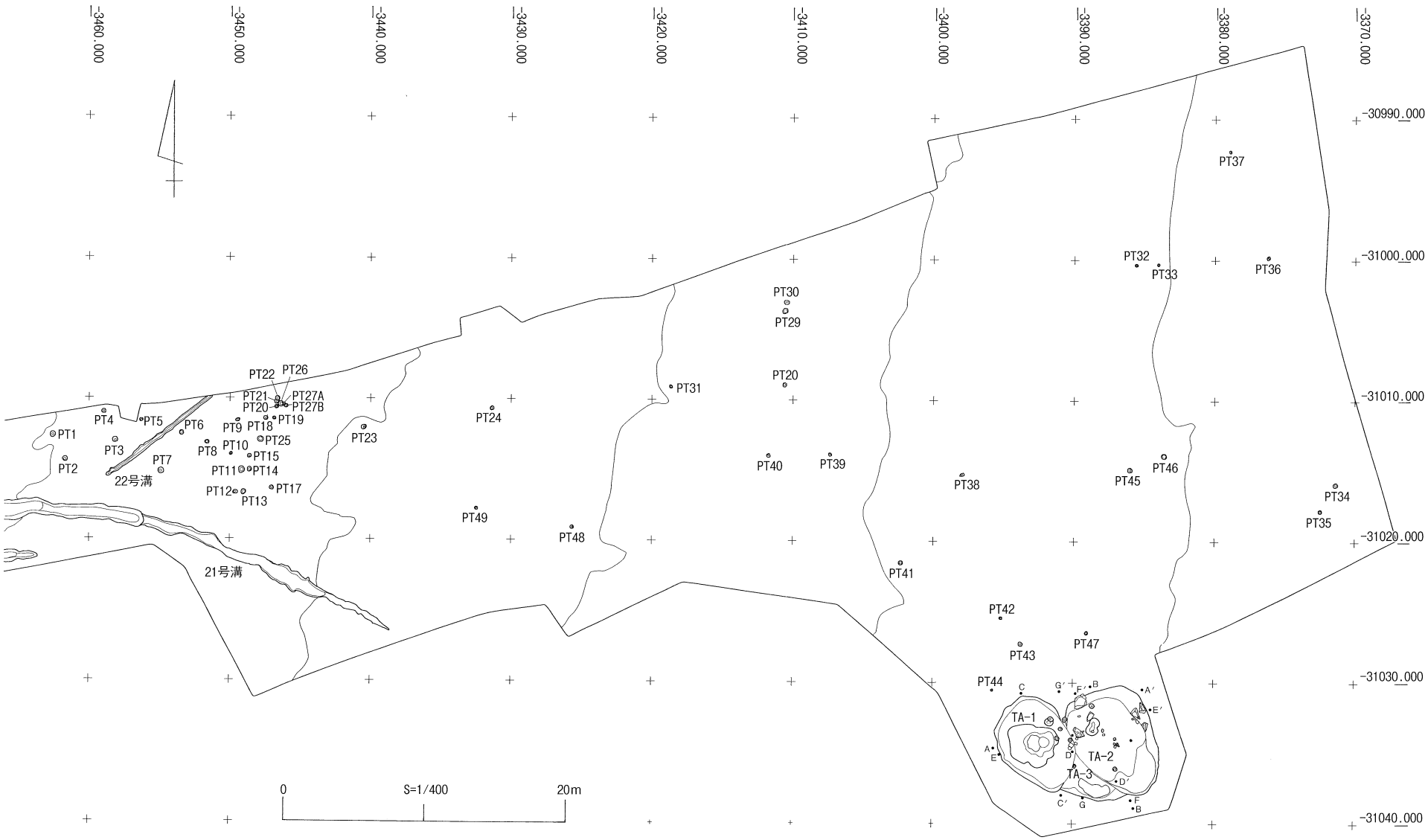
第２図　三百水遺跡　位置図（1/5,000）


1
2
3
-3590.000
-3580.000
-3570.000
-3560.000
-3640.000
-3630.000
-3620.000
-3610.000
-3600.000
-31030.000
-31040.000
-31050.000
-31060.000
-31070.000
-31080.000
4号溝
5号溝
10号溝
3号溝
9号溝
3号溝 石積
1号溝
2号溝
0
S=1/400
20m

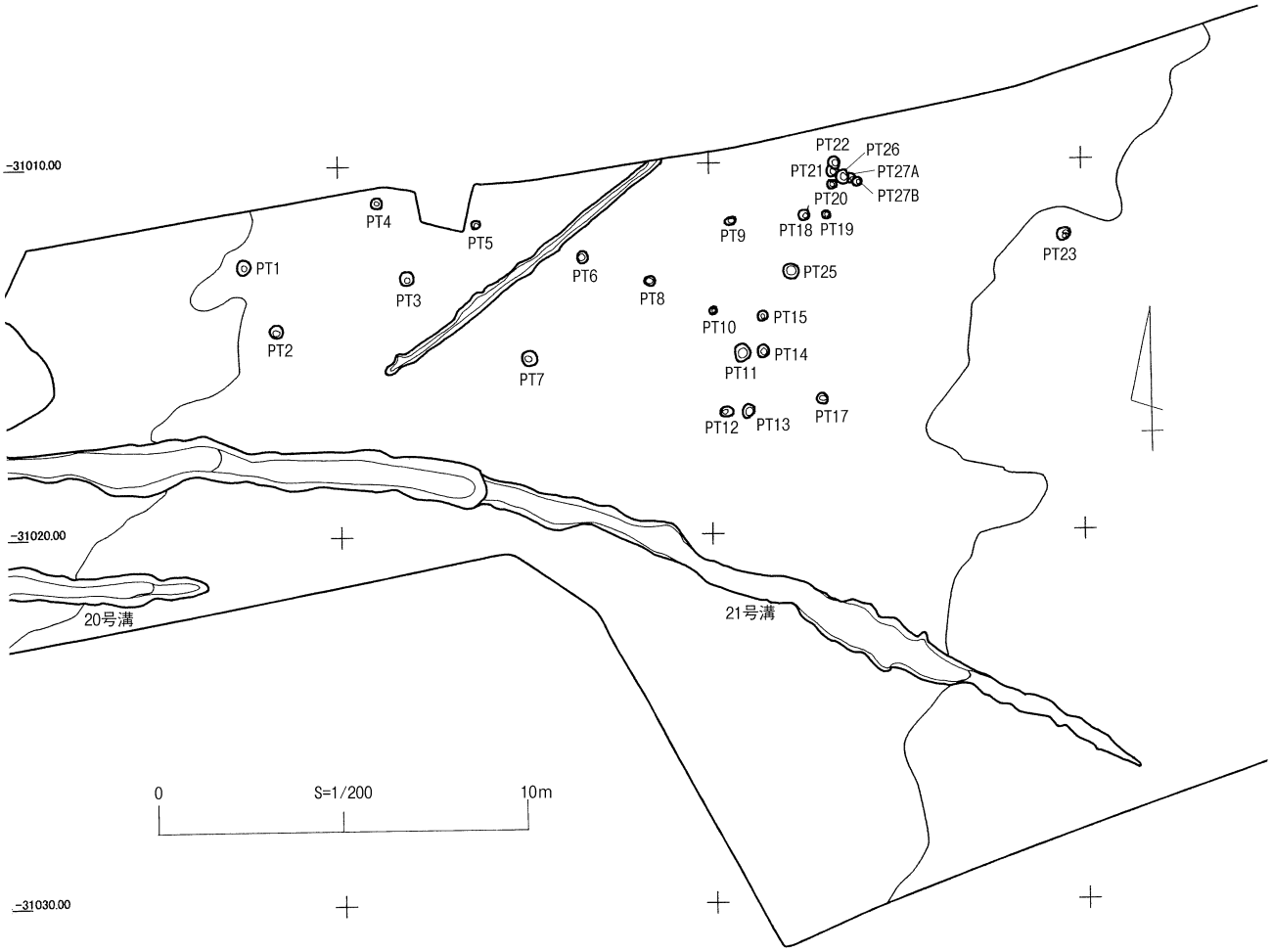
第３図　全体図(1)


-3550.000
-3540.000
-3530.000
-3520.000
-3510.000
-3500.000
-3490.000
-3480.000
-3470.000
-31000.000
-31010.000
-31020.000
-31030.000
-31040.000
-31050.000
PT1
PT2
PT3
PT4
PT5
22号溝
21号溝
20号溝
19号溝
18号溝
17号溝
16号溝
15号溝
8号溝
7号溝
6号溝
14号溝
13号溝
12号溝
11号溝
5号溝
10号溝
0
S=1/400
20m

第４図　全体図(2)


-3460.000
-3450.000
-3440.000
-3430.000
-3420.000
-3410.000
-3400.000
-3390.000
-3380.000
-3370.000
-30990.000
-31000.000
-31010.000
-31020.000
-31030.000
-31040.000
PT1
PT2
PT3
PT4
PT5
PT6
PT7
PT8
PT9
PT10
PT11
PT12
PT13
PT14
PT15
PT17
PT18
PT19
PT20
PT21
PT22
PT23
PT24
PT25
PT26
PT27A
PT27B
PT29
PT30
PT31
PT32
PT33
PT34
PT35
PT36
PT37
PT38
PT39
PT40
PT41
PT42
PT43
PT44
PT45
PT46
PT47
PT48
PT49
22号溝
21号溝
TA-1
TA-2
TA-3
0
S=1/400
20m

第５図　全体図(3)

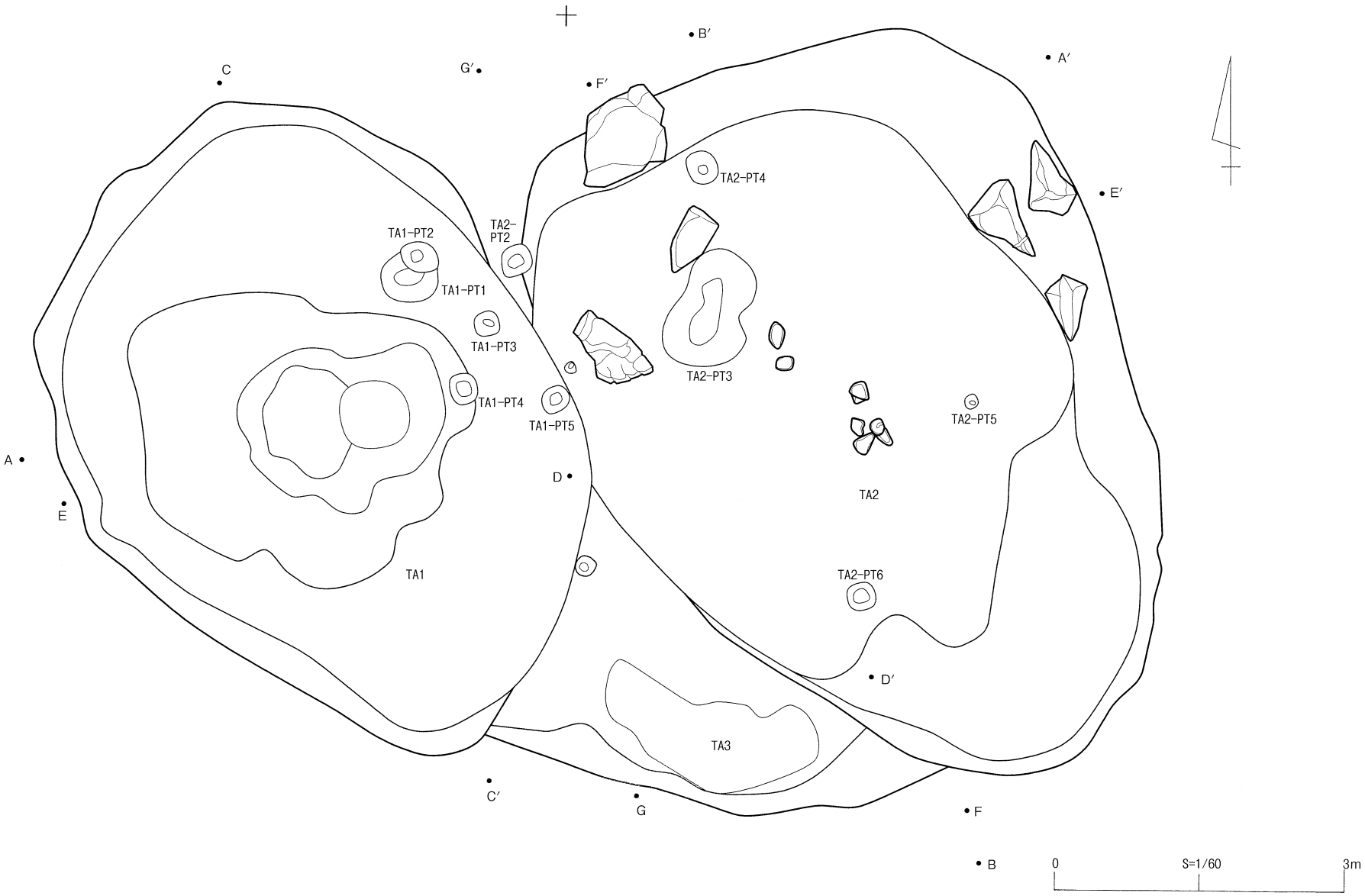


第６図　ピット群　平面図

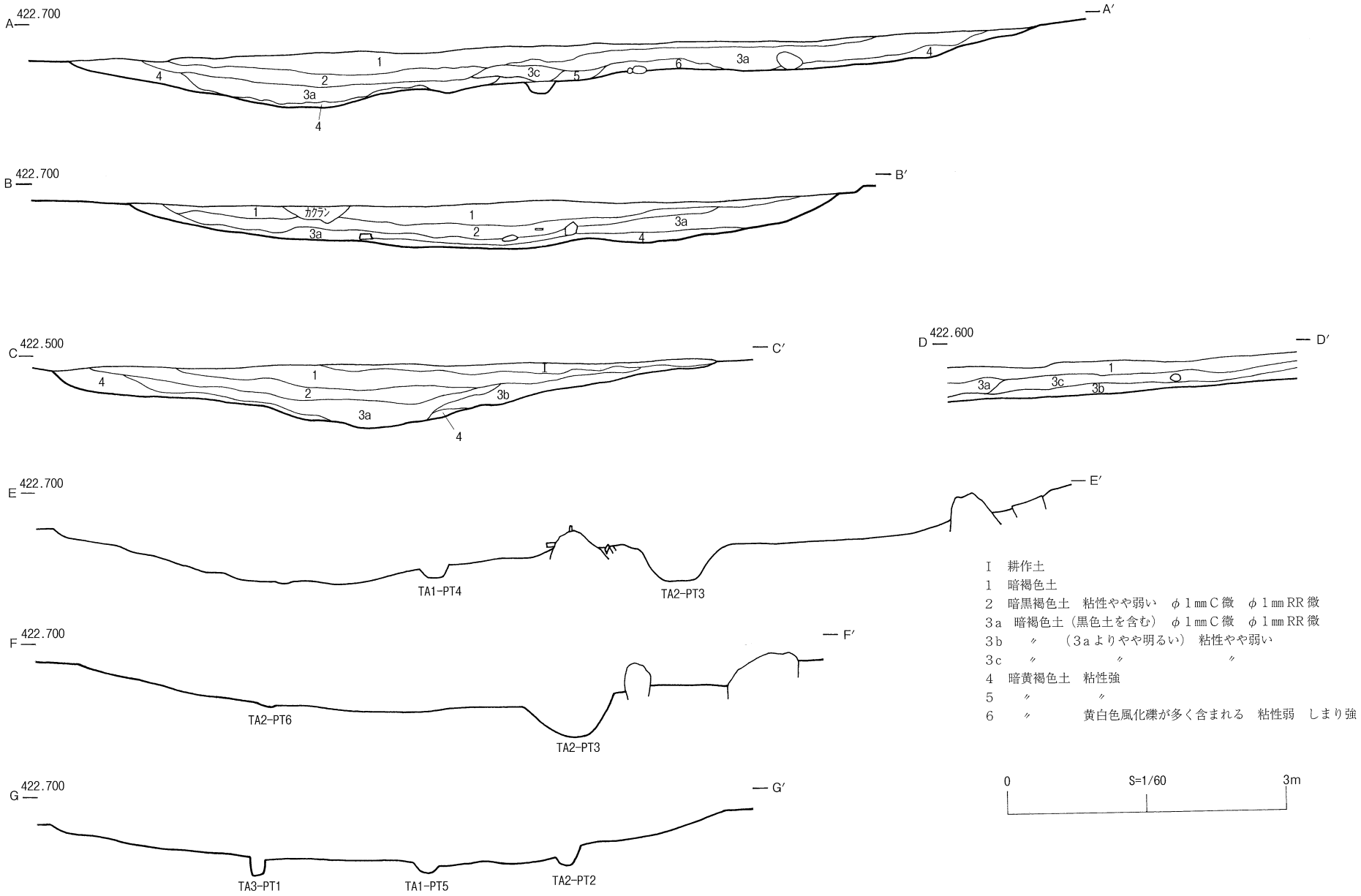
ピット観察表

ピット名	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	備　考
PT1	34	34	12.5	
PT2	31	31	13	
PT3	37	37	13	
PT4	24	23	11	
PT5	22	19	18	
PT6	27	30	13.5	
PT7	40	32	9.5	
PT8	29	24	7.5	
PT9	28	18	9.5	
PT10	19	20	6.5	
PT11	30	40	12	
PT12	21	24	23.5	
PT13	27	33	6	
PT14	29	30	10	
PT15	23	26	7.5	
PT16	—	—	—	欠番
PT17	27	27	10	
PT18	26	30	8.5	
PT19	15	18	7	
PT20	25	22	6.5	
PT21	26	27	7.5	
PT22	30	30	12	
PT23	35	31	16.5	
PT24	25	26	6.5	
PT25	39	36	7.5	

ピット名	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	備　考
PT26	32	33	12	
PT27a	16	26	8	
PT27 b	22	23	6.5	
PT28	25	27	18	
PT29	32	36	6.5	
PT30	35	30	17.5	
PT31	20	22	7.5	
PT32	18	16	9	
PT33	15	17	14.5	
PT34	28.5	32	14	
PT35	28	23	10	
PT36	21	23	48	炭化物多
PT37	16	19	14.5	
PT38	32	20	21	
PT39	19	24	5	
PT40	23	23	4.5	
PT41	27	27	6	
PT42	17	19	9	
PT43	26	29	12	
PT44	11	11	11	
PT45	30	30	34	炭化物多
PT46	32	34	42	炭化物多
PT47	20	21	4	
PT48	20	20	7	
PT49	21	18	11	

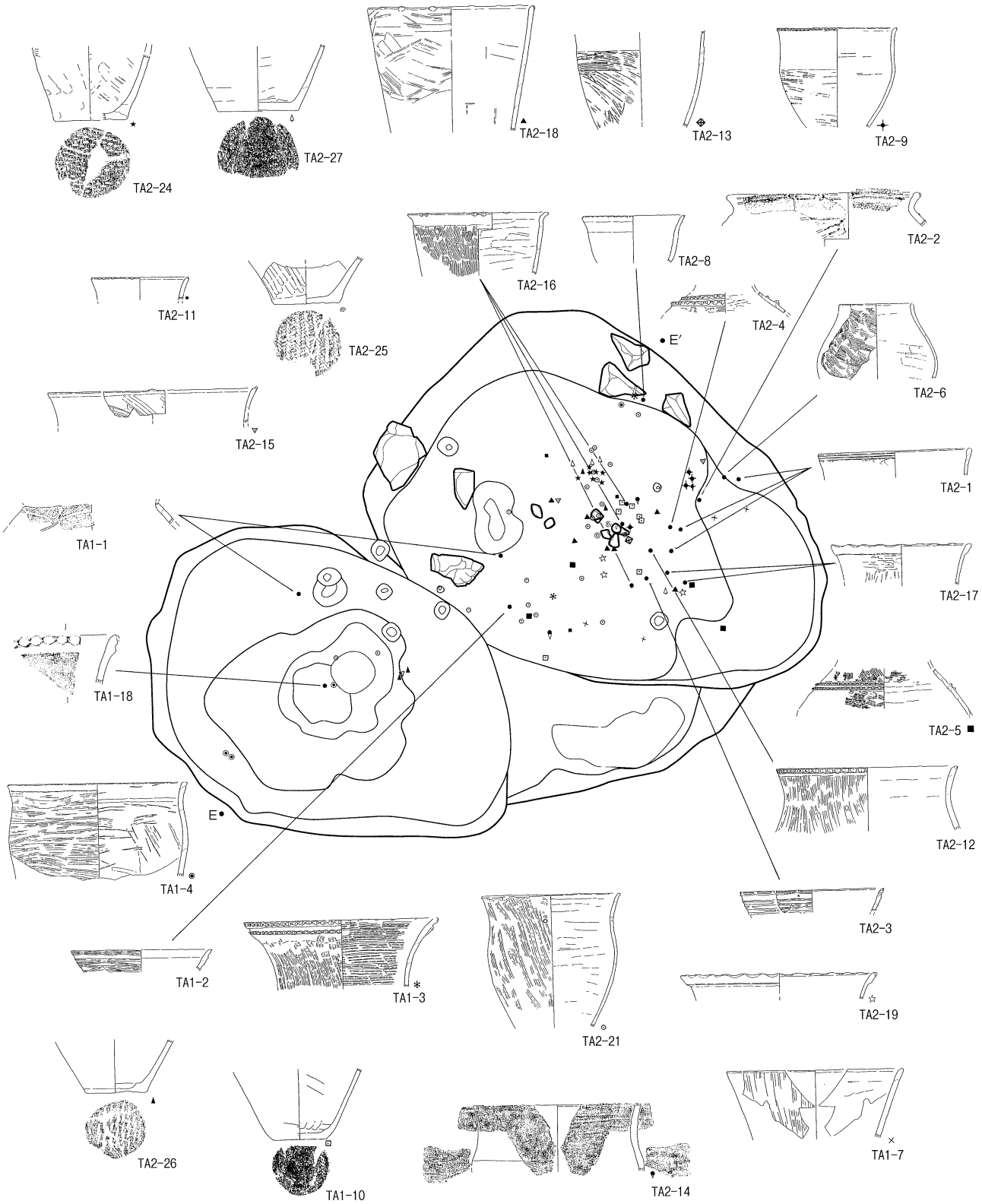


第７図　１・２・３号竪穴状遺構　平面図

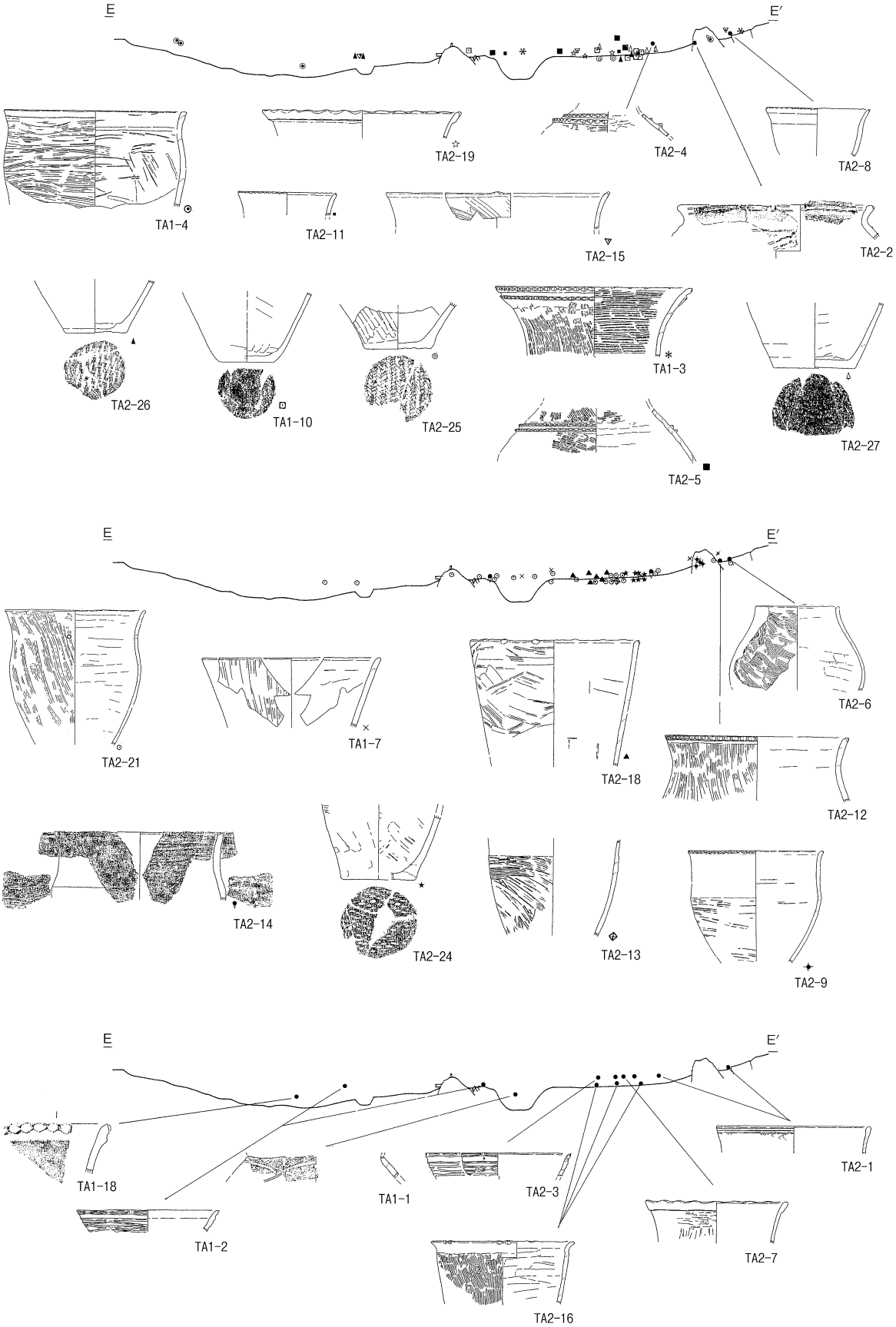


第8図　1・2・3号竪穴状遺構　断面図

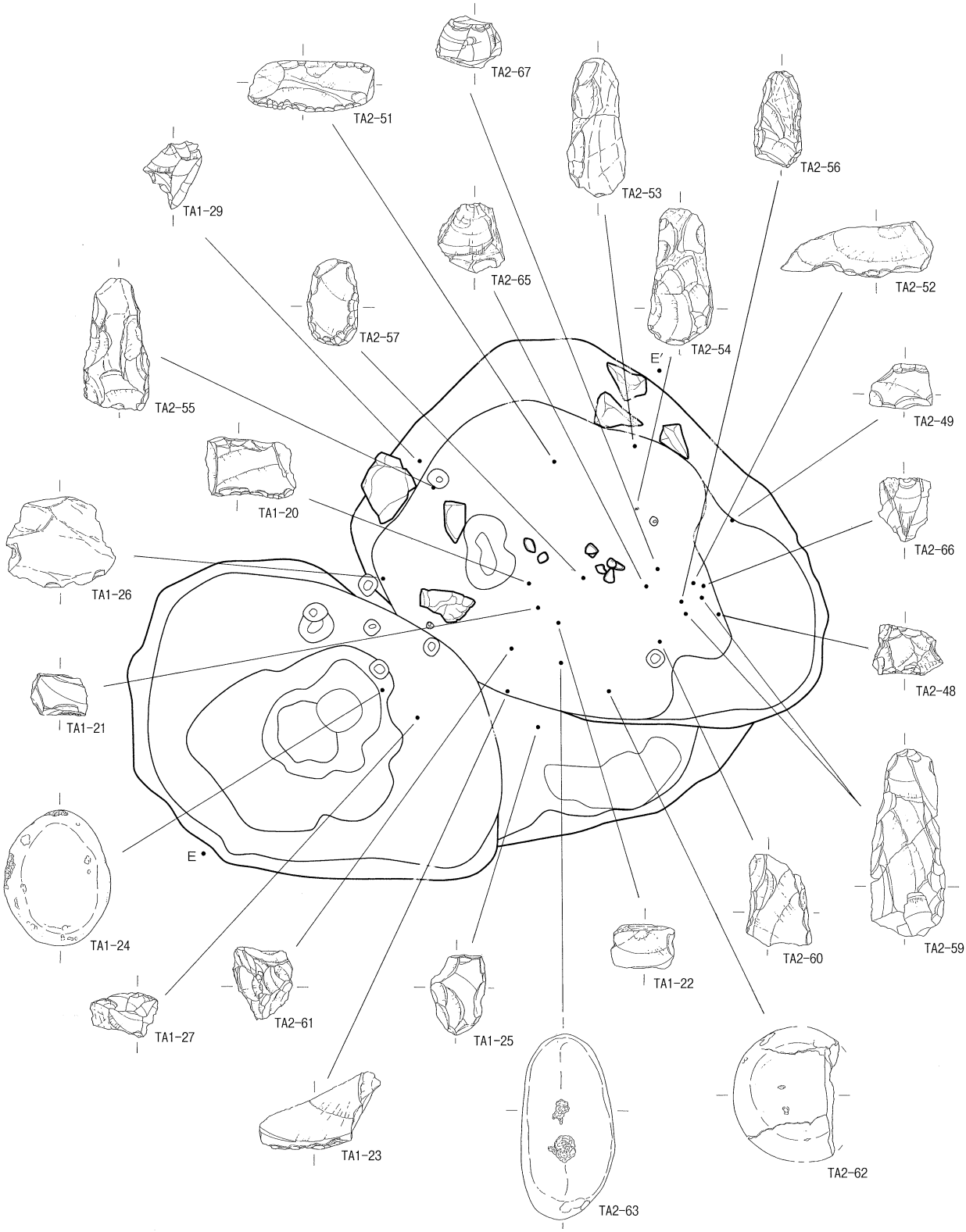
第９図　１・２・３号竪穴状遺構　遺物出土状況



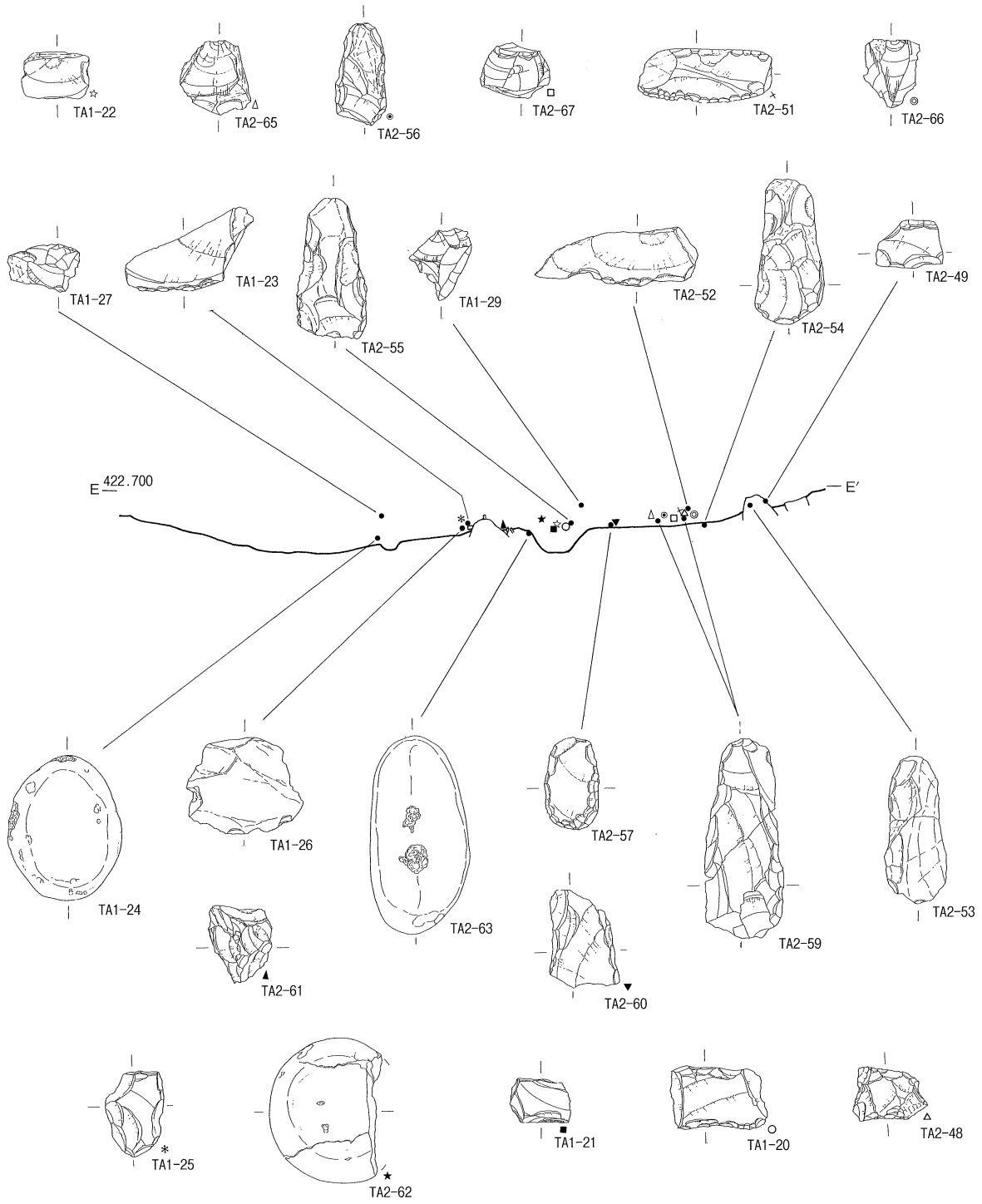
第10図　１・２・３号竪穴状遺構　土器出土状況(1)



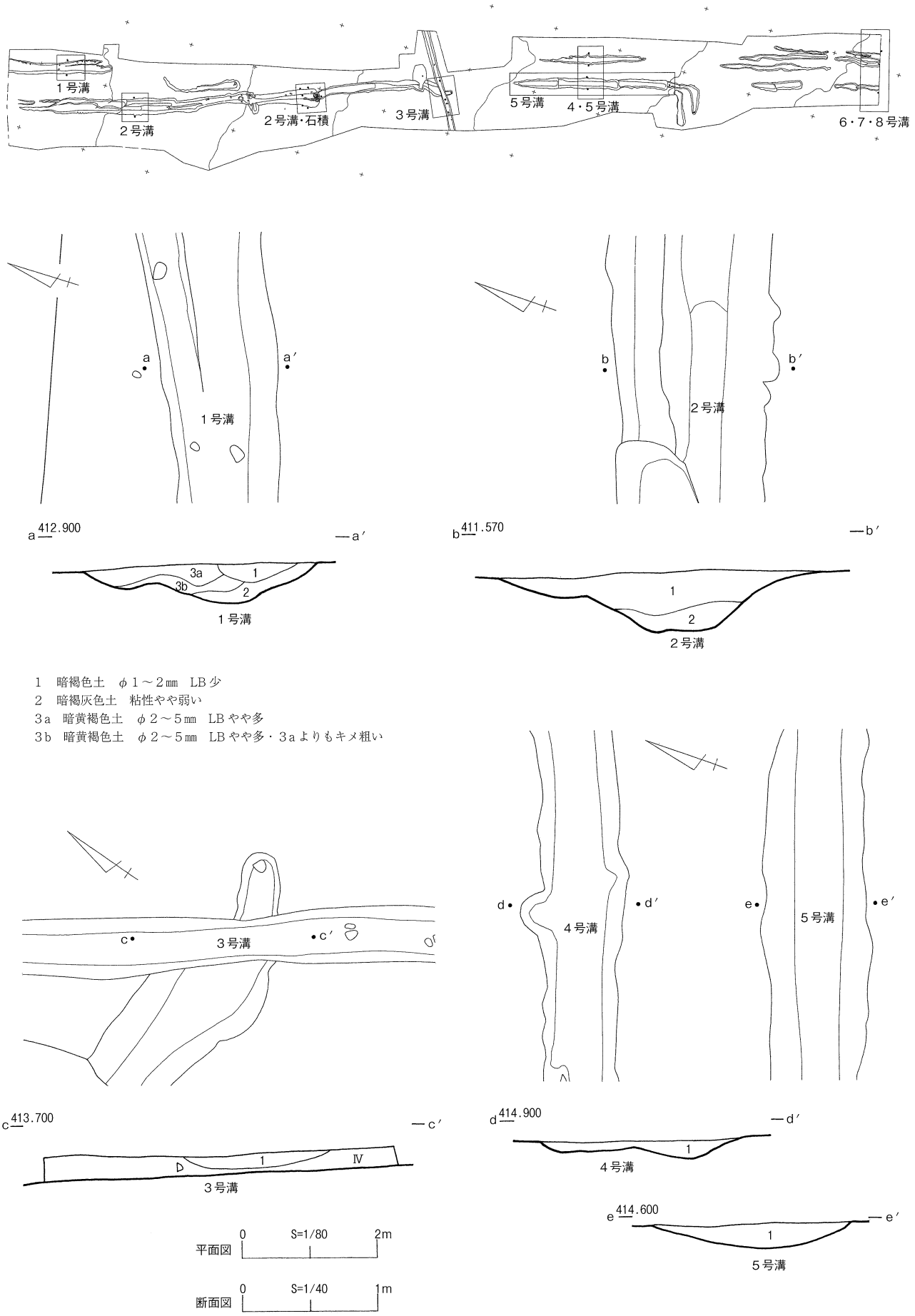
第11図　１・２・３号竪穴状遺構　土器出土状況(2)



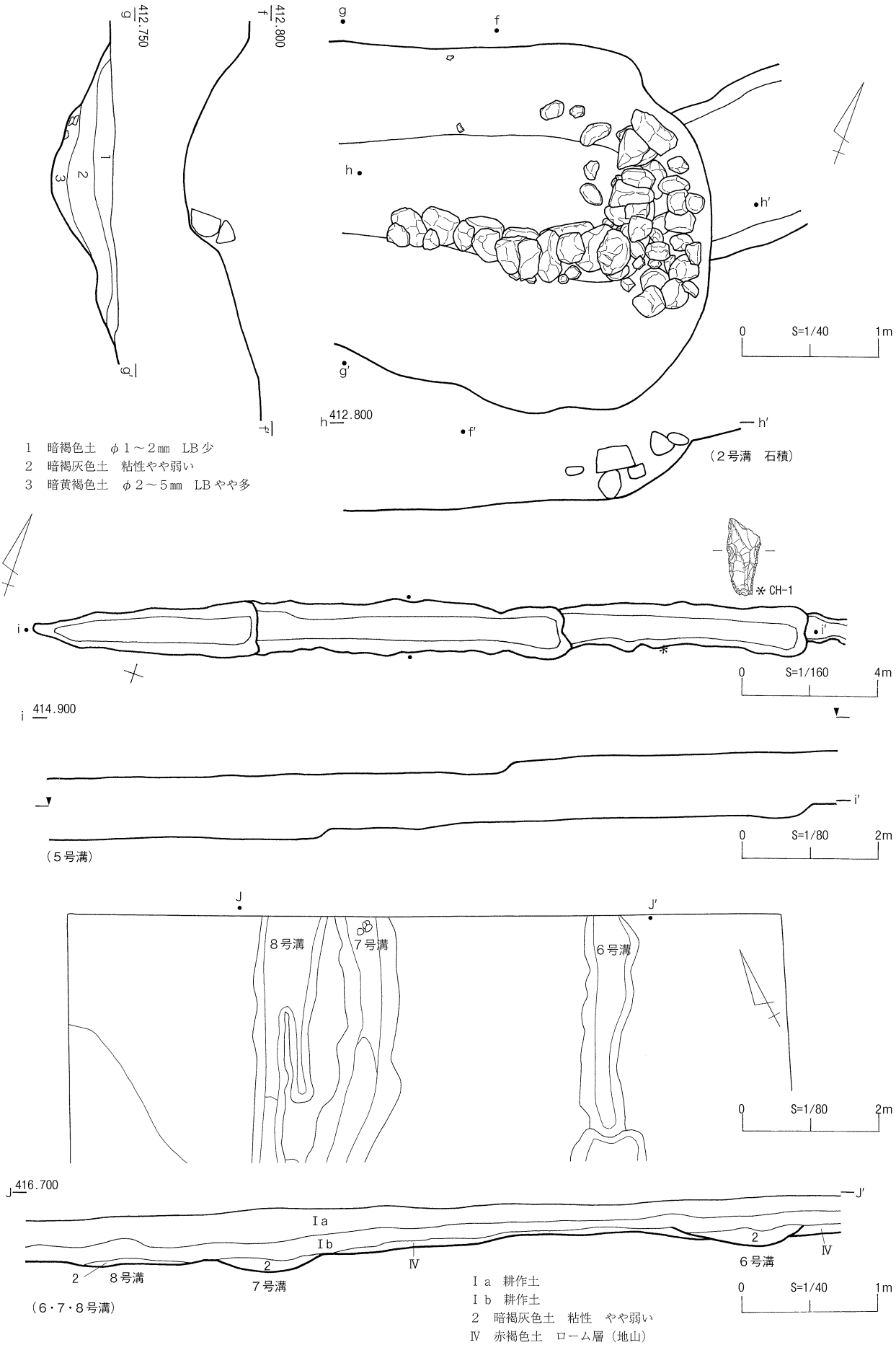
第12図　１・２・３号竪穴状遺構　石器出土状況(2)



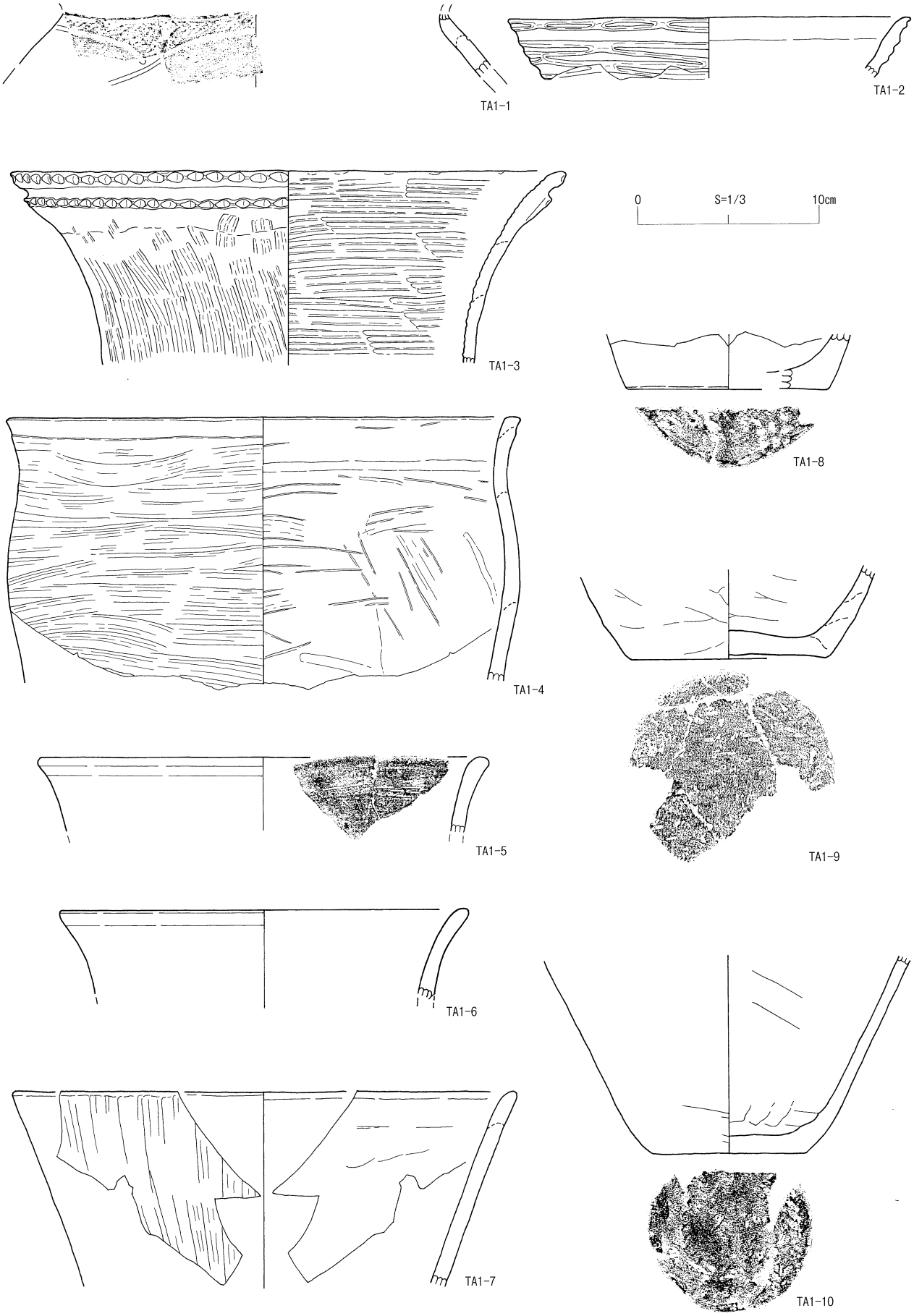
第13図　１・２・３号竪穴状遺構　石器出土状況(2)



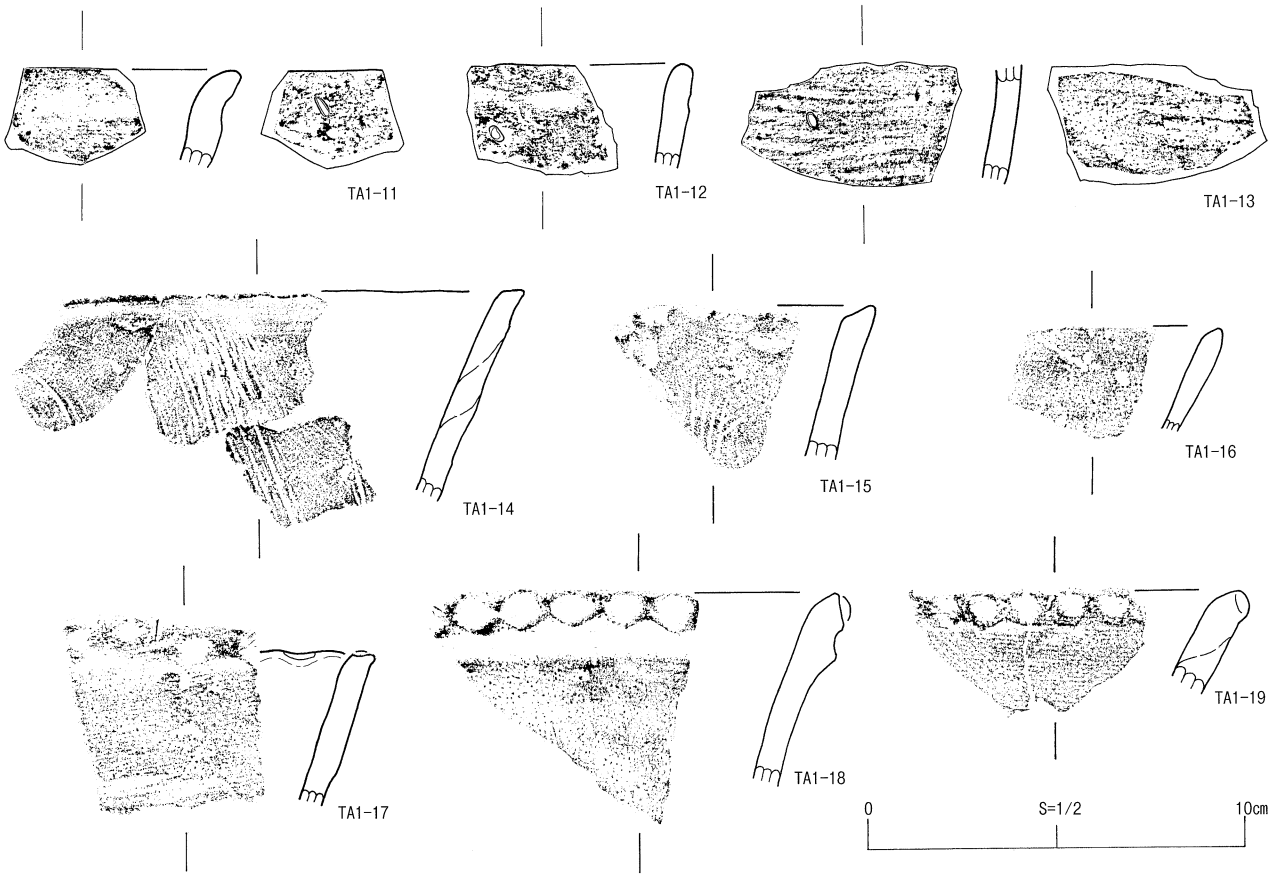
第14図　1・2・3・4・5号溝　平・断面図



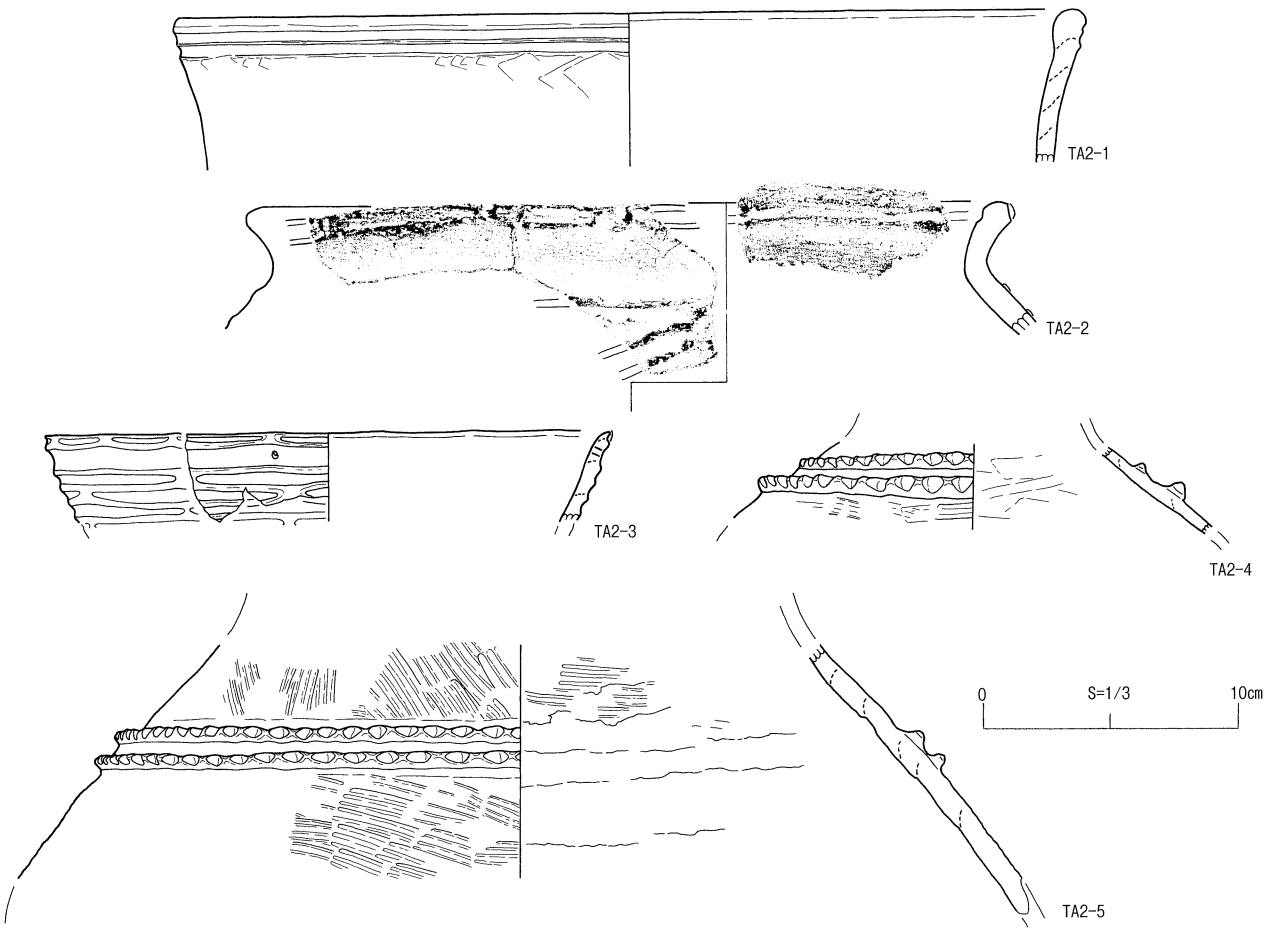
第15図 2・5・6・7・8号溝 平・断面図



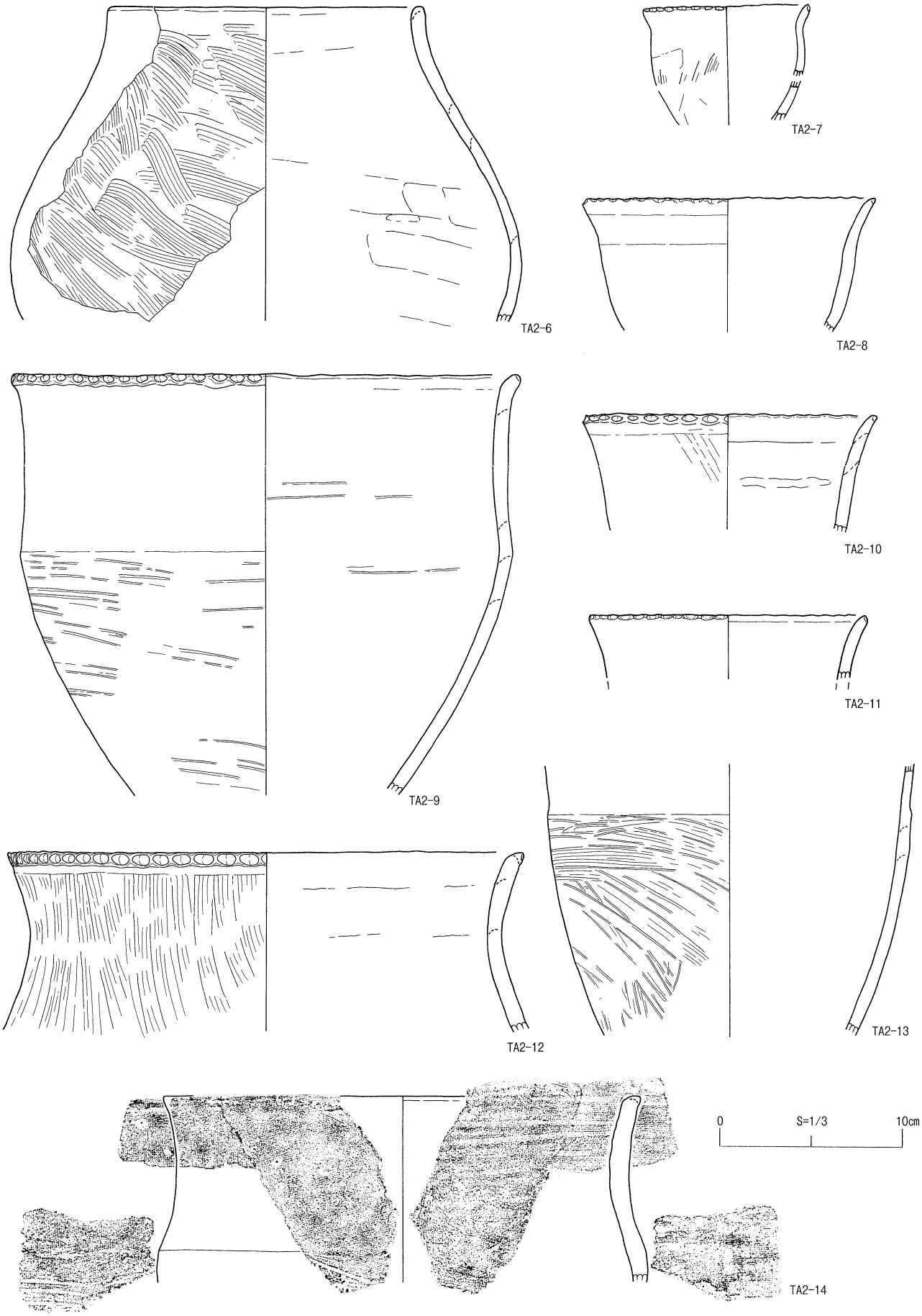
第16図　1号竪穴状遺構　出土土器(1)



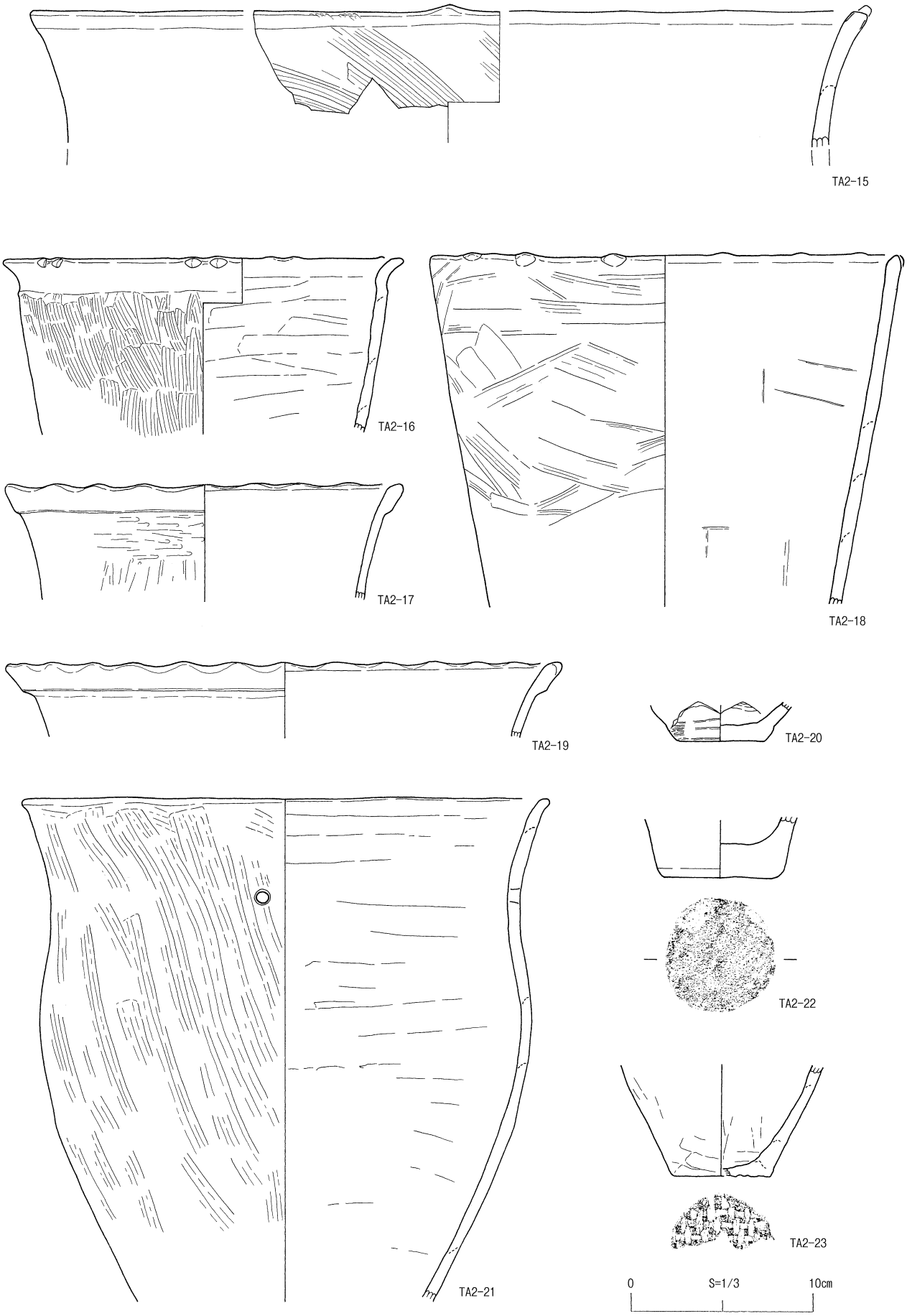
第17図　１号竪穴状遺構　出土土器(2)



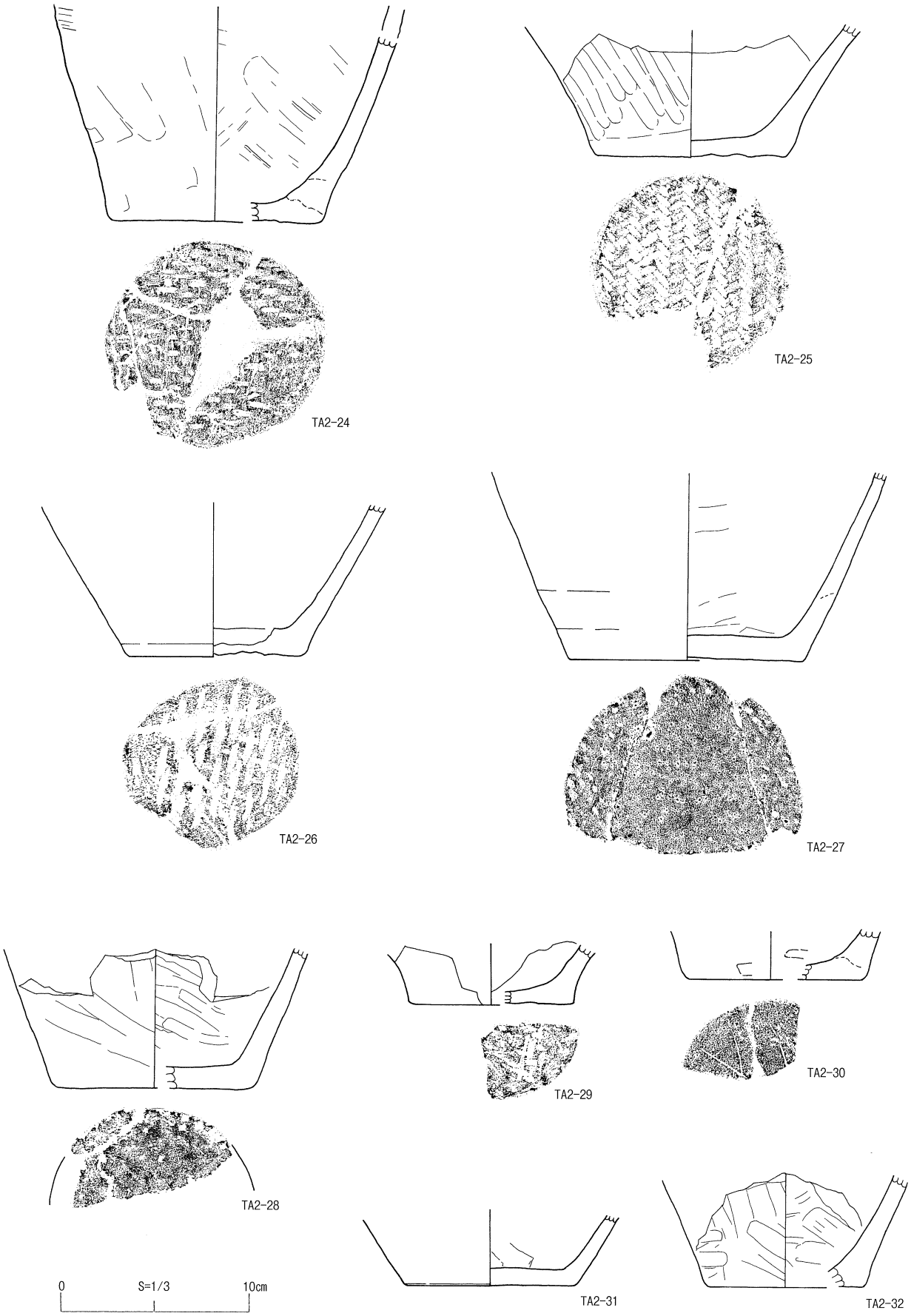
第18図　２号竪穴状遺構　出土土器(1)



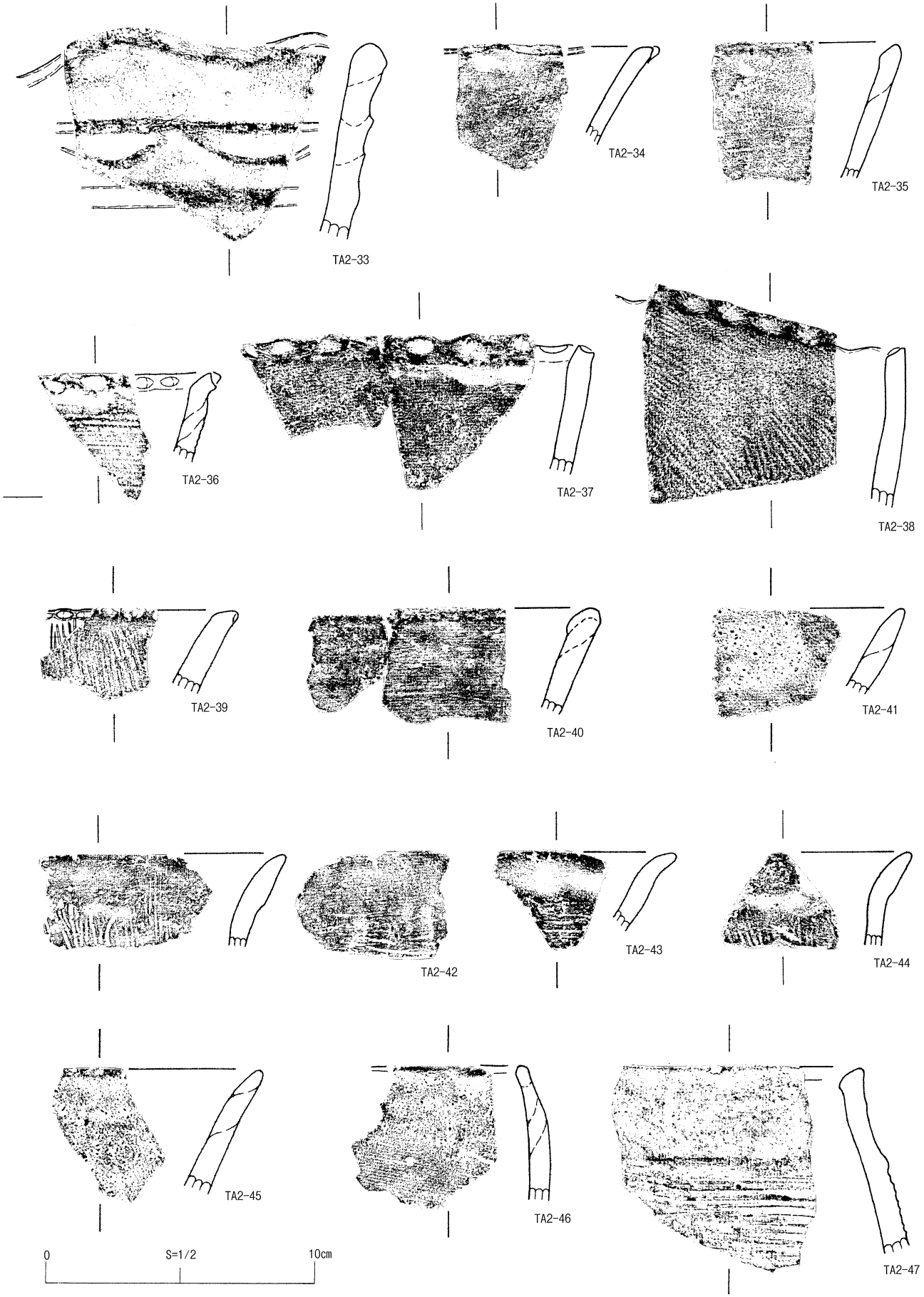
第19図　２号竪穴状遺構　出土土器(2)



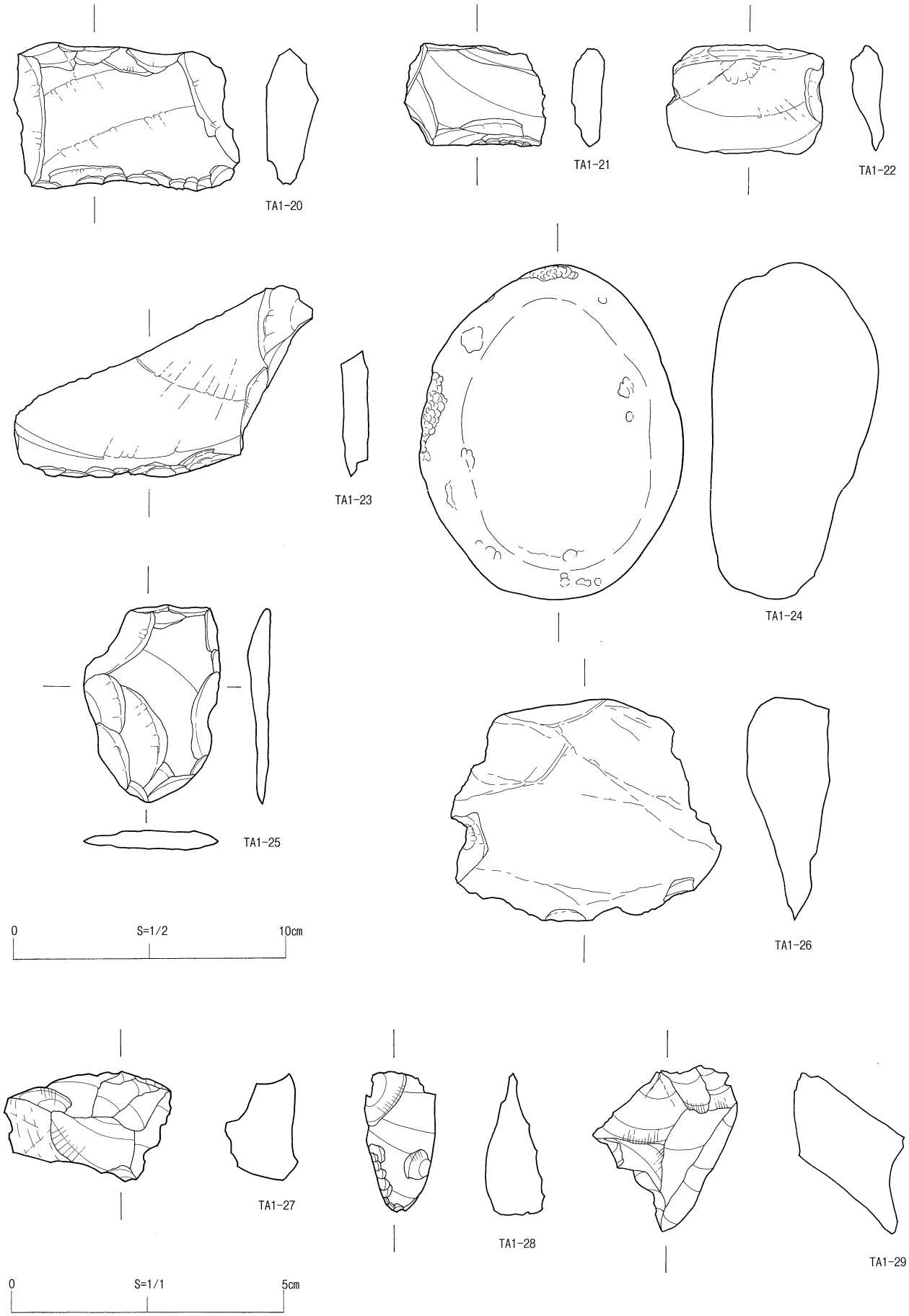
第20図　２号竪穴状遺構　出土土器(3)



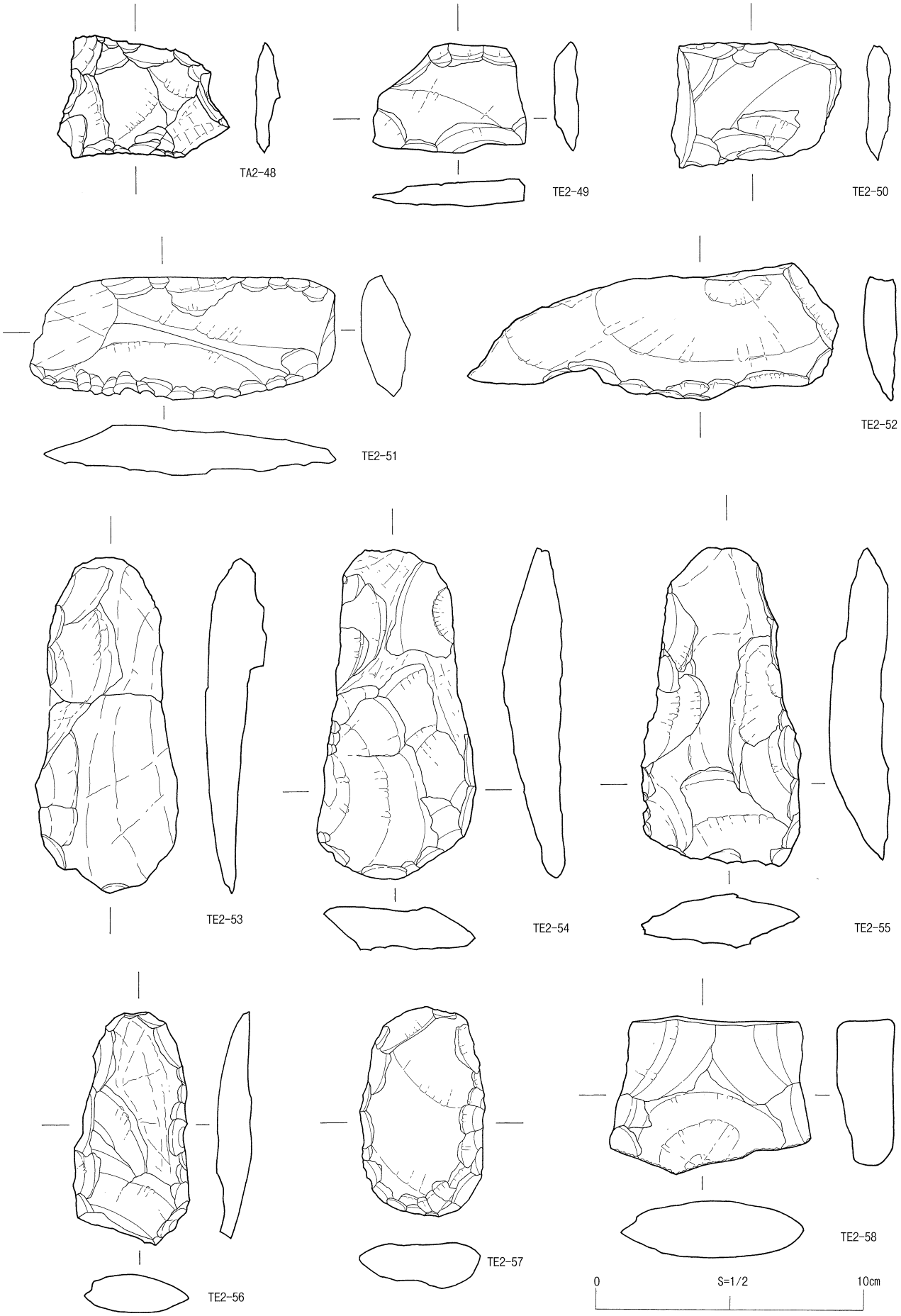
第21図　２号竪穴状遺構　出土土器(4)



第22図　２号竪穴状遺構　出土土器(5)

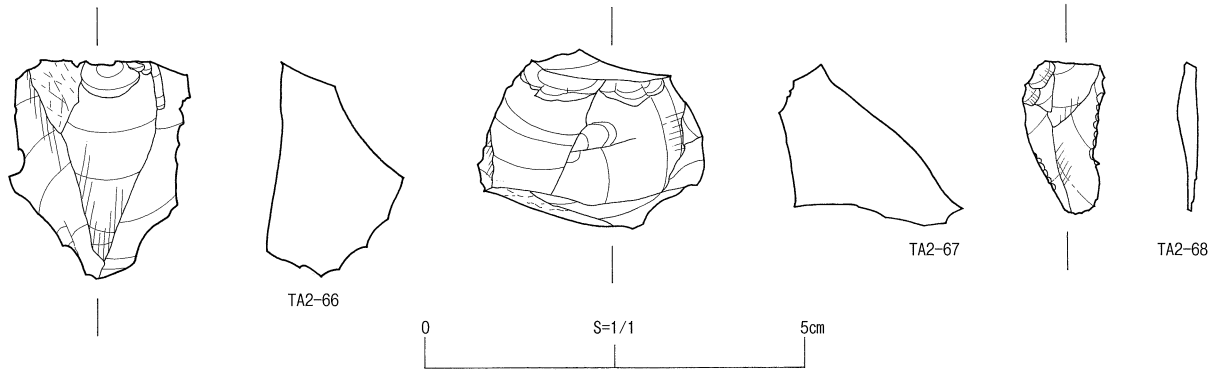


第23図　1号竪穴状遺構　出土石器

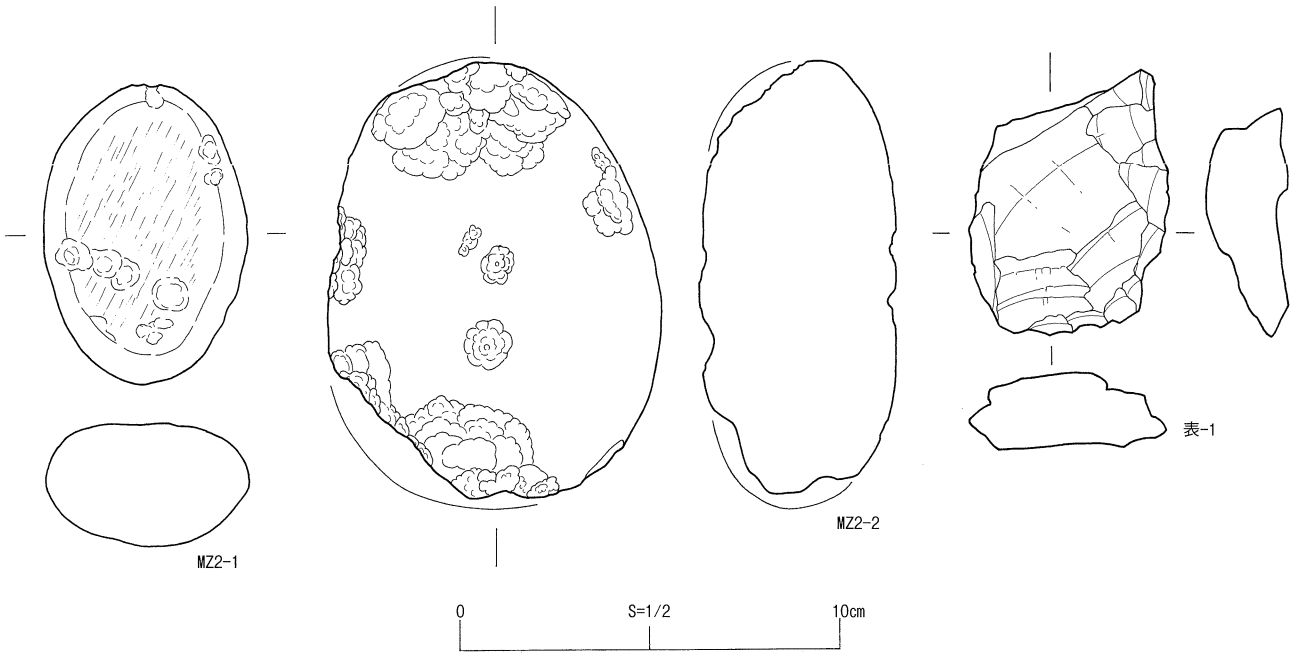


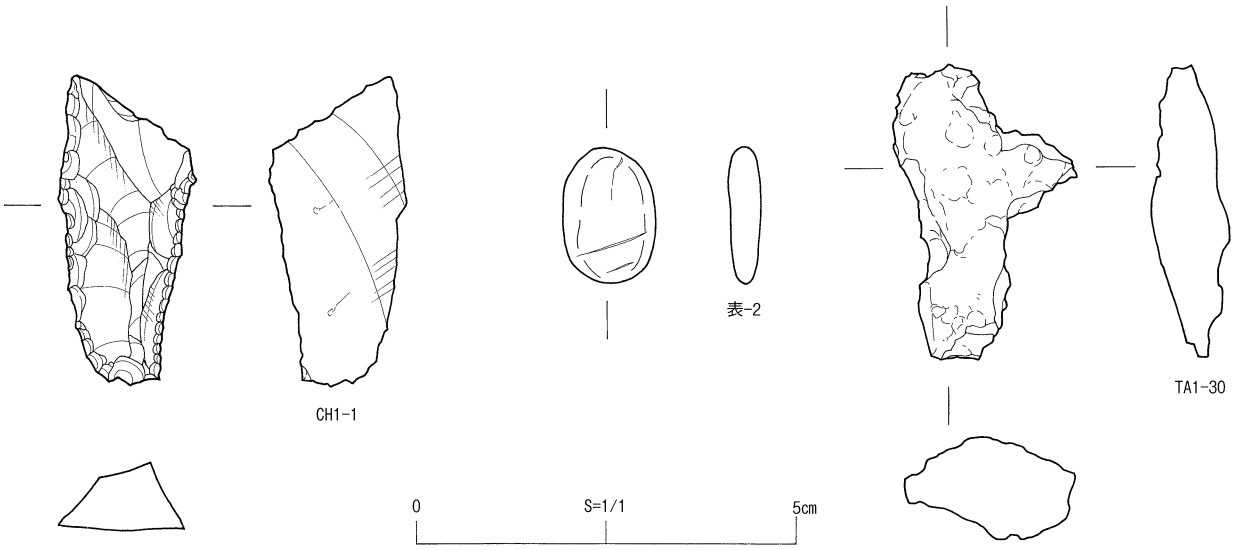
第24図　２号竪穴状遺構　出土石器(1)

第25図　２号竪穴状遺構　出土石器(2)

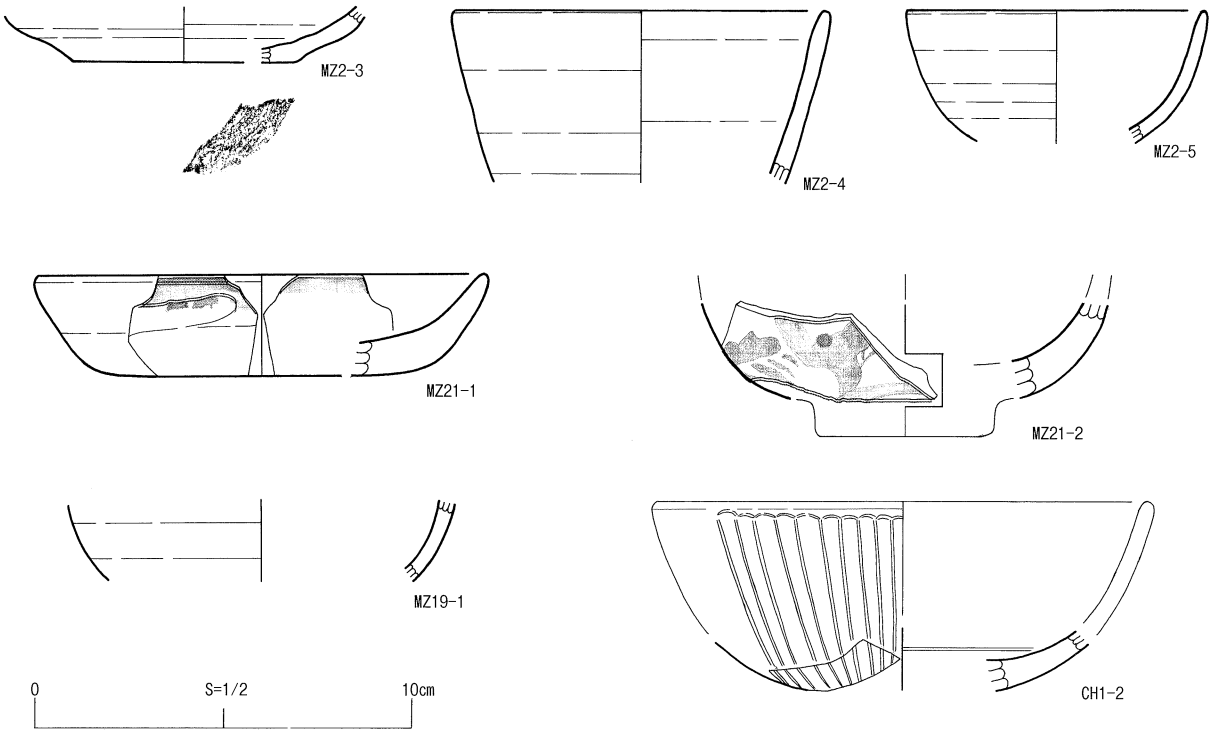


第26図　２号竪穴状遺構　出土石器(3)





第27図　２号溝　調査区１・表彩　出土遺物



第28図　2・19・21号溝　調査区1　出土遺物

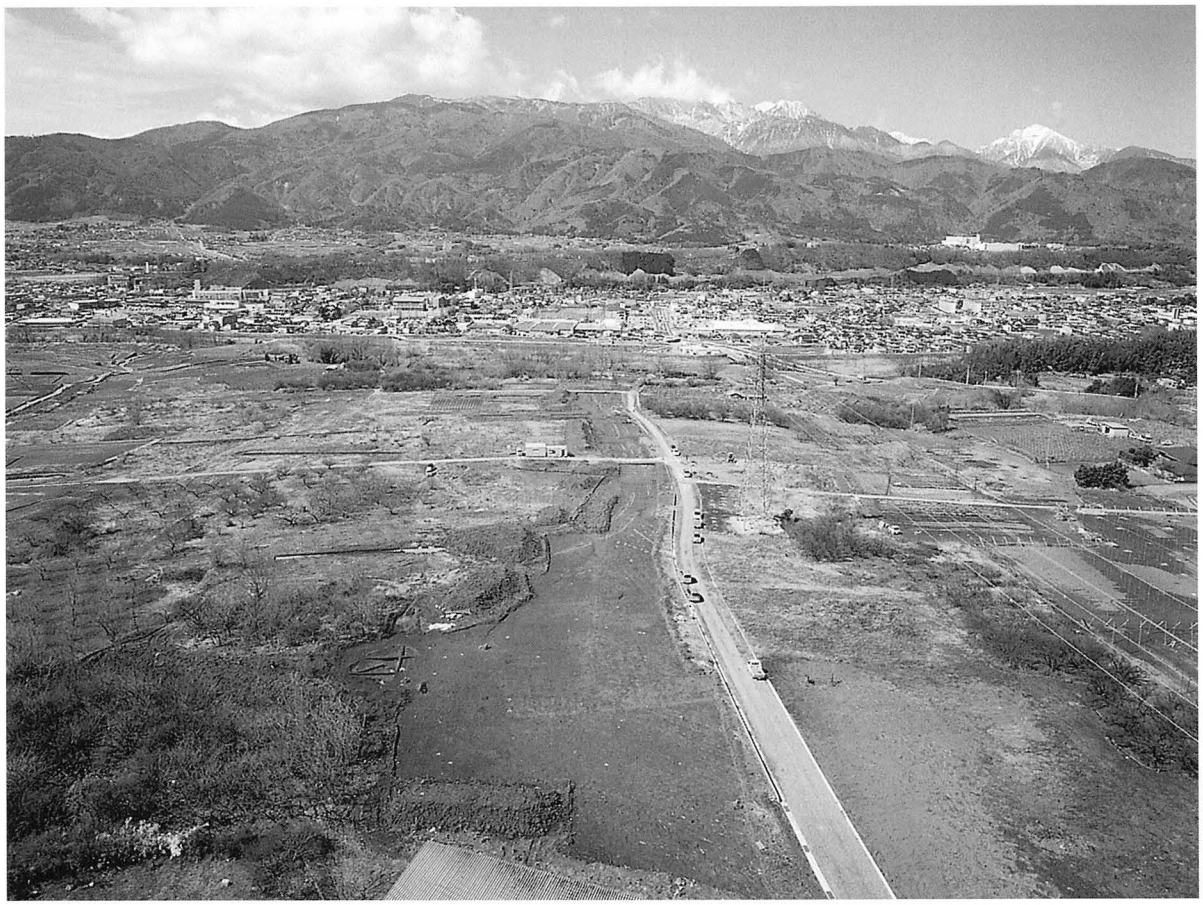
遺物観察表

図版No.	報告No.	遺物（注記）No.	器形	時期	部位	色調（内）	色調（外）	胎土・石材	器高 縦 (cm)	口径 横 (cm)	底径 厚さ (cm)	重量 (g)	備　考
第16図	TA1-1	TA1-61. TA2-99・141・314他	鉢	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい褐色	にぶい褐色	白・赤・黒色粒子	－	27.4	－	473.2	(内) 横撫で (外) 縦方向条痕文　輪積痕が見られる
第16図	TA1-2	TA1-57	碗	縄文晩期	口縁部片	褐色	褐色	白・赤・黒色粒子	－	22.0	－	100.8	(内) 撫で (外) 浮線網状文
第16図	TA1-3	TA1-79・114. TA2-112・381他	壷	縄文～弥生	口縁～頸部片	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白・赤・金・黒色粒子	－	30.0	－	392.6	(内) 横条痕文 (外) 口縁部に2本の横走する刻み文のある隆帯、縦条痕文
第16図	TA1-4	TA1-268・6・7・16	甕	縄文～弥生	口縁部片	褐色	明褐色	白・赤・黒・黒光粒子	－	28.0	－	756.5	(内) 撫で (外) 条痕文
第16図	TA1-5	TA 一括	甕	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい橙色	にぶい黄褐色	黒・赤・白色粒子	－	24.6	－	48.7	(内・外) 撫で
第16図	TA1-6	TA1-38. 143	甕	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい橙色	にぶい褐色	黒・白・茶色粒子を含む	－	22.0	－	595.1	(内外) 撫で
第16図	TA1-7	TA1-61・TA2-99・141・314他	鉢	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい褐色	にぶい褐色	白・赤・黒色粒子	－	27.4	－	473.2	(内) 横撫で (外) 縦条痕文・輪積痕がみられる
第16図	TA1-8	TA1-63	深鉢	縄文～弥生	胴下～底部片	灰褐色	明褐色～にぶい褐色	白・乳白・赤・黒光粒子	－	－	11.0	97.6	(内・外) 横方向のヘラ撫で　底部網代痕
第16図	TA1-9	TA1-103・154・TA2-60・356・362	甕	縄文～弥生	底部片	褐色	褐色	白・金・乳白・赤・黒色粒子	－	－	10.8	293.1	(内) 撫で (外) ヘラ撫で (底部) 木葉痕にヘラ撫で
第16図	TA1-10	TA1-86・TA2-66・203・220・244他	甕	縄文～弥生	胴～底部片	明褐色～にぶい褐色	明褐色～にぶい褐色	白・黒・黒光・赤色粒子	－	－	8.5	599.2	(内・外) 横撫で (底部) 網代痕
第17図	TA1-11	TA1- 一括	鉢	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	灰褐色	白・黒・黒光・赤色粒子	－	－	－	11.1	(内) 種子痕
第17図	TA1-12	TA1- 一括	鉢	縄文～弥生	口縁部片	灰褐色	褐色	白・黒色粒子	－	－	－	9.7	(外) 種子痕
第17図	TA1-13	TA1- 一括	甕	縄文～弥生	胴～底部片	褐色	褐色	白・黒光粒子	－	－	－	16.8	(外) 種子痕
第17図	TA1-14	TA1- 一括・TA2-303	甕	縄文～弥生	口縁部片	にぶい褐色	にぶい褐色	白・黒・茶・黒光粒子	－	－	－	238.0	(外) 口縁横撫で・胴部条痕文
第17図	TA1-15	TA1-88	鉢	縄文～弥生	口縁部片	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒色粒子	－	－	－	487.9	口縁端部に指頭による刻み

図版No.	報告No.	遺物（注記）No.	器形	時期	部位	色調（内）	色調（外）	胎土・石材	器高 縦（cm）	口径 横（cm）	底径 厚さ（cm）	重量（g）	備考
第17図	TA1-16	TA1-39	鉢	縄文～弥生	口縁部片	赤褐色	赤褐色	白・黒・金色	－	－	－	10.8	（内外）撫で
第17図	TA1-17	TA1-65	甕	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	明褐色	白色粒子	－	－	－	31.1	口縁端部に指頭による刻み
第17図	TA1-18	TA1-15	甕	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	灰褐色	白・黒色粒子	－	－	－	37.7	口縁端部に指頭による刻み
第17図	TA1-19	TA1-一括・29	甕	縄文～弥生	口縁部片	暗赤褐色	赤褐色	白・赤色粒子	－	－	－	21.2	口縁端部に指頭による刻み
第18図	TA2-1	TA2-93・150・151	深鉢	縄文晩期	口縁部片	明黄褐色	黒褐色	白・黒・赤・黒光粒子	－	36.0	－	104.3	（内）撫で （外）棒状工具による沈線
第18図	TA2-2	TA2-160	壷	縄文晩期	口縁部片	褐色	褐色	白・黒色粒子	－	－	－	40.4	（内）撫で （外）浮線文
第18図	TA2-3	TA2-278、TA2-一括	鉢	縄文晩期	口縁～胴部片	橙色	にぶい赤褐色	白・黒色粒子	－	22.4	－	19.5	（内）撫で （外）浮線網状文 穿孔有り
第18図	TA2-4	TA2-153・57他	壷	縄文～弥生	肩部片	橙色	にぶい黄橙色	白・金・乳白・赤・黒色粒子	－	－	－	129.1	（内）横撫で （外）肩部に二本の横走する刻みのある隆帯 ハケ目がわずかに見られる
第18図	TA2-5	TA2-31・119・374 TA-99・163	壷	縄文～弥生	肩部片	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白・赤・金・乳白粒子	－	－	－	274.0	（内）撫で・条痕文・輪積み痕有り （外）条痕文・肩部の隆帯上に指頭による刻み
第19図	TA2-6	TA2-80・91・133・191	壷	縄文～弥生	口縁～胴部片	褐色	黒褐色	白・赤・金・乳白色粒子	－	17.2	－	332.0	（内）ヘラ撫で （外）斜め条痕文
第19図	TA2-7	TA2-一括	壷	縄文～弥生	口縁～胴部	にぶい赤褐色	明赤褐色	白・黒色粒子	－	9.4	－	24.4	（内）撫で （外）胴部刷毛目 口縁部横撫で・刻み
第19図	TA2-8	TA2-77	壷	縄文～弥生	口縁～胴部片	橙色	橙色	白・黒色粒子	－	15.6	－	116.2	（内）撫で （外）口唇部押圧文
第19図	TA2-9	TA2-161・163・183・185・186他	甕	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい橙色	にぶい橙色	黒・白・乳白色粒子	－	28.0	－	1458.7	（内）撫で （外）条痕文 口唇部押圧文
第19図	TA2-10	TA1-144・TA2-一括	甕	縄文～弥生	口縁～胴部片	灰褐色	黄橙色～灰褐色	白色粒子	－	15.6	－	116.1	（内）撫で （外）口縁端指頭押圧による刻み
第19図	TA2-11	TA2-32・247・308・一括	甕	縄文～弥生	口縁部片	にぶい褐色	褐色	黒・白・赤・黒光粒子	－	15.4	－	85.3	（内）撫で （外）口縁部に刻目
第19図	TA2-12	TA2-134・135・137・274・302他	甕	縄文～弥生	口縁～頸部片	明赤褐色	明赤褐色	白・黒・赤色粒子	－	14.2	－	207.6	（内）横撫で （外）指頭押圧による刻み・胴部縦条痕文
第19図	TA2-13	TA2-61・132・221・226・242他	甕	縄文～弥生	胴部片	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	白・黒色粒子	－	－	－	550.7	（内）撫で （外）条痕文
第19図	TA2-14	TA2-250・341	甕	縄文～弥生	口縁～頸部片	赤褐色～にぶい赤褐色	赤褐色～にぶい赤褐色	白・乳白・黒色粒子	－	26.0	－	207.8	（内）横刷毛目 （外）胴部条痕文
第20図	TA2-15	TA2-83・14 TA1-36	深鉢	縄文～弥生	口縁～胴部片	にぶい褐色	にぶい褐色	白・透明・黒色粒子	－	46.0	－	464.0	（内）横撫で （外）斜め方向の条痕文 口縁部に山形突起有り（4単位か？） 輪積み痕
第20図	TA2-16	TA2-131・187・188・218・245他	深鉢	縄文～弥生	口縁～胴部	褐色	褐色	白・金・赤・黒色粒子	－	22.0	－	351.8	（内）横撫で （外）縦条痕文 （口縁）横撫で・7ヶ所あったと思われる2ケ1組の刻み文
第20図	TA2-17	TA2-149・293	深鉢	縄文～弥生	口縁～胴部	暗赤褐色	褐色	白・黒・金色粒子	－	21.6	－	72.0	（内）撫で （外）波状口縁で肥厚
第20図	TA2-18	TA2-13・122・198・215・372・一括	深鉢	縄文～弥生	口縁～胴部	褐色	明褐色	白・黒・赤・黒光粒子	－	26.0	－	846.8	（内）ヘラ撫でか？ （外）条痕文 口縁－小突起
第20図	TA2-19	TA2-294・394・383・一括	深鉢	縄文～弥生	口縁部片	褐色	にぶい黄褐色	白・乳白・赤・黒色粒子	－	30.6	－	151.0	（内）横撫で （外）口縁部は肥厚で波状に押圧痕有り
第20図	TA2-20	TA2-235	甕	縄文～弥生	底部片	橙色	橙色	白・赤・くろ・黒光粒子	－	－	5.0	21.3	（内）ヘラ撫で （外）条痕文
第20図	TA2-21	TA1-23・52・112・TA2-74・204他	甕	縄文～弥生	口縁～胴部	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白・金・赤・乳白・黒色粒子	－	36.9	－	2083.2	（内）横ヘラ撫で （外）縦条痕文・頸部に穴があけられてる
第20図	TA2-22	TA2-390	甕	縄文～弥生	底部片	にぶい赤褐色	赤褐色	白色粒子	－	－	6.2	207.4	（内）撫で
第20図	TA2-23	TA1-40・TA2-12・一括	深鉢	縄文～弥生	底部片	褐灰色	明赤褐色	白・金・赤・黒光粒子	－	－	5.4	78.8	（内外）撫で 底部網代痕
第21図	TA2-24	TA2-72・73・258・259・260他	甕	縄文～弥生	底部片	にぶい橙色	橙色	白・赤・金色粒子	－	－	11.2	836.6	（内）ヘラ撫で （外）ヘラ撫で、わずかに条痕文がみられる
第21図	TA2-25	TA2-227・228	深鉢	縄文～弥生	胴下部～底部	にぶい褐色	明赤褐～にぶい褐色	白・黒・赤色粒子	－	－	10.2	446.3	（内）斜方向の条痕文 （外）縦方向の撫で・底部網代痕
第21図	TA2-26	TA1-34・37・TA2-263・334・一括	甕	縄文～弥生	胴下部～底部	灰褐色	明褐色～褐色	白色粒子	－	－	9.4	378.7	底部網代痕

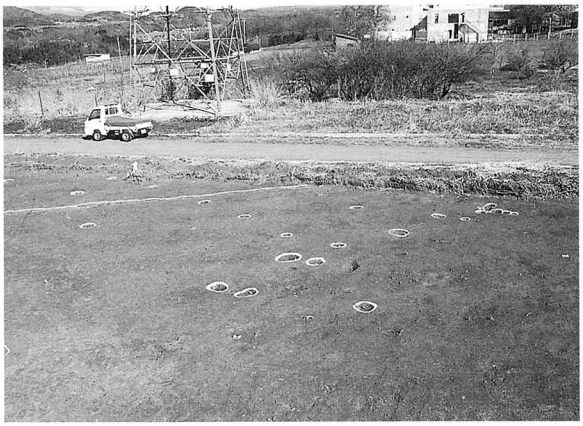
図版No.	報告No.	遺物（注記）No.	器形	時期	部位	色調（内）	色調（外）	胎土・石材	器高 縦（cm）	口径 横（cm）	底径 厚さ（cm）	重量（g）	備考
第21図	TA2-27	TA2-26・51・261・262	甕	縄文～弥生	底部片	褐色	明黄褐色	白・乳白・金・赤・黒色粒子	－	－	12.5	510.4	（内）撫でが見られるが不鮮明 （外）磨滅により不鮮明・底部網代痕
第21図	TA2-28	TA2-307・340	甕	縄文～弥生	胴下部～底部	灰褐色	橙色	白・黒・赤・乳白色粒子	－	－	11.0	252.8	（内外）撫で
第21図	TA2-29	TA2-一括	甕	縄文～弥生	胴下部～底部	にぶい褐色	明褐色	白・乳白・赤・黒光粒子	－	－	8.8	49.5	（内）条痕文？ （外）縦撫で・胴下部横ヘラ撫で （底部）網代痕
第21図	TA2-30	TA2-63・１１３	甕	縄文～弥生	底部片	暗褐色	赤褐色	白・乳白・金・赤・黒色粒子	－	－	10.0	63.1	（内・外）撫で 底部木葉痕
第21図	TA2-31	TA2-266	甕	縄文～弥生	底部片	明褐色	明褐色	白色粒子	－	－	9.3	191.3	（内）ヘラ撫で
第21図	TA2-32	TA2-110	甕	縄文～弥生	胴下部～底部片	にぶい黄褐色	明赤褐色	白・赤・黒・黒光粒子	－	－	8.4	80.3	（内外）ヘラ撫で
第22図	TA2-33	TA2-279	鉢	縄文晩期	口縁部片	明赤褐色	明赤褐色	白色粒子	－	－	－	116.1	（外）浮線文・波状口縁
第22図	TA2-34	TA2-389	鉢	縄文～弥生	口縁部片	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒色粒子	－	－	－	18.8	（外）平口縁で山形小突起
第22図	TA2-35	TA2-19	深鉢	縄文晩期	口縁部片	にぶい橙色	明赤褐色	白・赤・黒色粒子	－	－	－	43.0	（内・外）撫で
第22図	TA2-36	TA2-一括	甕	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	明褐色	白色粒子	－	－	－	14.0	（外）口縁端に指頭押圧文・胴部横条痕文
第22図	TA2-37	TA2-一括	甕	縄文晩期	口縁部片	橙色	橙色	白・黒・赤色粒子	－	－	－	46.3	口縁端部に指頭による刻み
第22図	TA2-38	TA2-282	甕	縄文～弥生	口縁部片	暗赤褐色	暗赤褐色	白・赤・黒色粒子	－	－	－	57.8	口縁端部に指頭による刻み
第22図	TA2-39	TA2-一括	甕	縄文～弥生	口縁部片	暗赤褐色	赤褐色	白・黒・黒光粒子	－	－	－	25.4	（外）口縁端に指頭押圧文・胴部縦条痕文
第22図	TA2-40	YA2-206	甕	縄文～弥生	口縁部片	明赤褐色	明赤褐色	白・黒色粒子	－	－	－	43.4	（内外）撫で
第22図	TA2-41	TA2-259	鉢	縄文～弥生	口縁部片	橙色	橙色	白・黒色粒子	－	－	－	10.6	（内・外）撫で
第22図	TA2-42	TA2-一括	甕	縄文～弥生	口縁部片	明赤褐色	にぶい赤褐色	白・黒・乳白色粒子	－	－	－	113.8	（内）横の条痕文 （外）縦の条痕文
第22図	TA2-43	TA2-一括	甕	縄文～弥生	口縁部片	にぶい赤褐色	暗赤褐色	白・乳白・黒色粒子	－	－	－	11.1	（外）横条痕文
第22図	TA2-44	TA2-208	甕	縄文～弥生	口縁部片	にぶい橙色	にぶい橙色	白・黒・赤色粒子	－	－	－	15.0	（内）撫で （外）条痕文
第22図	TA2-45	TA2-59	甕	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	にぶい黄橙色	白・黒・赤・黒光粒子	－	－	－	22.8	（内）撫で （外）斜条痕文
第22図	TA2-46	TA2-62	鉢	縄文～弥生	口縁部片	明褐色	にぶい赤褐色	白・黒色粒子	－	－	－	35.8	（内外）撫で
第22図	TA2-47	TA2-396	鉢	縄文～弥生	口縁部片	暗褐色	黒褐色	白・黒色粒子	－	－	－	73.3	（内）撫で （外）横条痕文
第23図	TA1-20	TA1-116	横刃	砂岩					5.5	8.3	1.9	109.1	
第23図	TA1-21	TA1-145	横刃	頁岩					3.8	5.2	1.2	35.8	
第23図	TA1-22	TA1-115	横刃	フォルンフエルス					4.0	5.8	1.2	38.8	
第23図	TA1-23	TA1-87	横刃	砂岩					7.0	11.0	1.1	79.3	
第23図	TA1-24	TA1-76	磨石	花崗岩				安山岩	12.3	9.6	6.2	918.2	
第23図	TA1-25	TA1-91	剥片	フォルンフエルス					7.2	5.0	0.8	33.0	加工痕のある剥片
第23図	TA1-26	TA1-77	礫器	砂岩					8.1	9.9	3.0	205.3	
第23図	TA1-27	TA1-74	使用痕剥片	水晶				水晶	2.0	3.1	1.3	7.9	
第23図	TA1-28	TA1-一括	使用痕剥片	黒曜石				黒曜石	2.6	1.3	1.1	3.3	
第23図	TA1-29	TA1-75	剥片	黒曜石				黒曜石	3.1	2.7	2.0	10.2	
第24図	TA2-48	TA2-126	横刃	頁岩					4.5	6.4	0.9	36.5	
第24図	TA2-49	TA2-49	横刃	雲母片岩					4.1	5.7	0.9	29.5	
第24図	TA2-50	TA2-一括	横刃	頁岩					4.7	6.4	0.9	41.0	
第24図	TA2-51	TA2-47	横刃	砂岩					5.5	11.4	1.9	106.4	
第24図	TA2-52	TA2-58	横刃	フォルンフエルス					5.2	13.8	1.2	101.7	
第24図	TA2-53	TA1-84・TA2-79	打斧	フォルンフエルス					12.5	5.3	2.1	130.9	
第24図	TA2-54	TA2-197	打斧	砂岩					12.3	5.9	2.2	164.6	
第24図	TA2-55	TA2-399	打斧	砂岩					12.0	6.0	2.2	159.2	
第24図	TA2-56	TA2-71	打斧	砂岩					8.7	4.4	1.3	60.1	

図版No.	報告No.	遺物（注記）No.	器形	時期	部位	色調（内）	色調（外）	胎土・石材	器高 縦 (cm)	口径 横 (cm)	底径 厚さ (cm)	重量 (g)	備　　考
第24図	TA2-57	TA2-395	打斧	砂岩					7.8	4.7	1.7	86.8	
第24図	TA2-58	TA2-一括	打斧	砂岩					5.9	7.5	2.1	132.8	
第25図	TA2-59	TA2-290・291	打斧	フォルンフエルス					16.9	6.7	2.5	307.3	
第25図	TA2-60	TA2-385	加工痕剥片	フォルンフエルス					8.3	6.0	1.4	71.2	
第25図	TA2-61	TA2-317	石核	チャート					6.6	5.4	3.3	117.7	
第25図	TA2-62	TA2-327	磨石	安山岩					12.2	9.6	5.9	1034.0	
第25図	TA2-63	TA2-377	凹石	安山岩					16.8	8.5	6.5	938.8	
第25図	TA2-64	TA2-一括	石鏃	黒曜石					2.1	1.2	0.4	0.7	
第25図	TA2-65	TA2-34	コア	黒曜石					3.2	3.0	1.3	11.9	
第26図	TA2-66	TA2-145	コア	黒曜石					2.9	2.3	1.8	9.8	
第26図	TA2-67	TA2-154	コア	黒曜石					2.4	3.0	2.4	13.0	
第26図	TA2-68	TA2-一括	剥片	黒曜石					2.1	1.1	0.3	0.5	
第27図	MZ2-1	溝2	磨石	安山岩					8.0	5.4	3.3	182.4	
第27図	MZ2-2	溝2	凹石	安山岩					11.5	8.8	5.2	621.9	
第27図	表-1	表採	打斧か	砂岩					7.1	5.3	2.2	99.2	
第27図	CH1-1	調査区1-2	ナイフ形石器	黒曜石					4.1	1.8	0.9	5.9	
第27図	表-2	一括	碁石						1.8	1.2	0.4	1.5	
第27図	TA1-30	TA1-一括							3.9	2.4	1.4	5.9	
第28図	MZ2-3	溝2-1	土師器(坏)	平安	体～底部片	橙色	橙色	黒・赤・白色粒子	－	－	6.0	7.0	底部回転糸切痕
第28図	MZ2-4	溝2	陶器碗	近世	口縁～胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	密	－	9.7	－	7.6	(内外) 釉掛け
第28図	MZ2-5	溝2	陶器碗	近世	口縁～腰部片	浅黄～にぶい黄色	浅黄～にぶい黄色	白色粒子	－	7.8	－	739.0	(内外) 釉掛け
第28図	MZ21-1	溝21-2	土師質土器	近世	口縁～底部片	橙色（口縁黒変）	橙色（口縁黒変）	白・赤・黒・金・乳白色粒子	2.7	11.8	8.1	19.2	口縁に付着物有り
第28図	MZ21-2	溝21-1	磁器碗	近世	腰部片	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	密・黒色粒子	－	－	－	14.2	
第28図	MZ19-1	溝19-2	陶器碗	近世	胴部片	灰色	灰色	白色粒子・密	－	－	－	9.0	(内外) 釉掛け
第28図	CH1-2	調査区1-1	中国青磁	戦国末	腰部片	暗灰黄色	暗灰黄色	密・白色粒子	－	13.0	－		

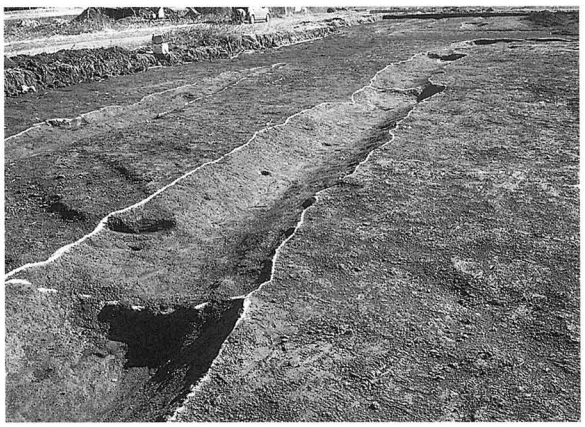


三百水遺跡全景（東から）

１・２号溝全景（南西から）



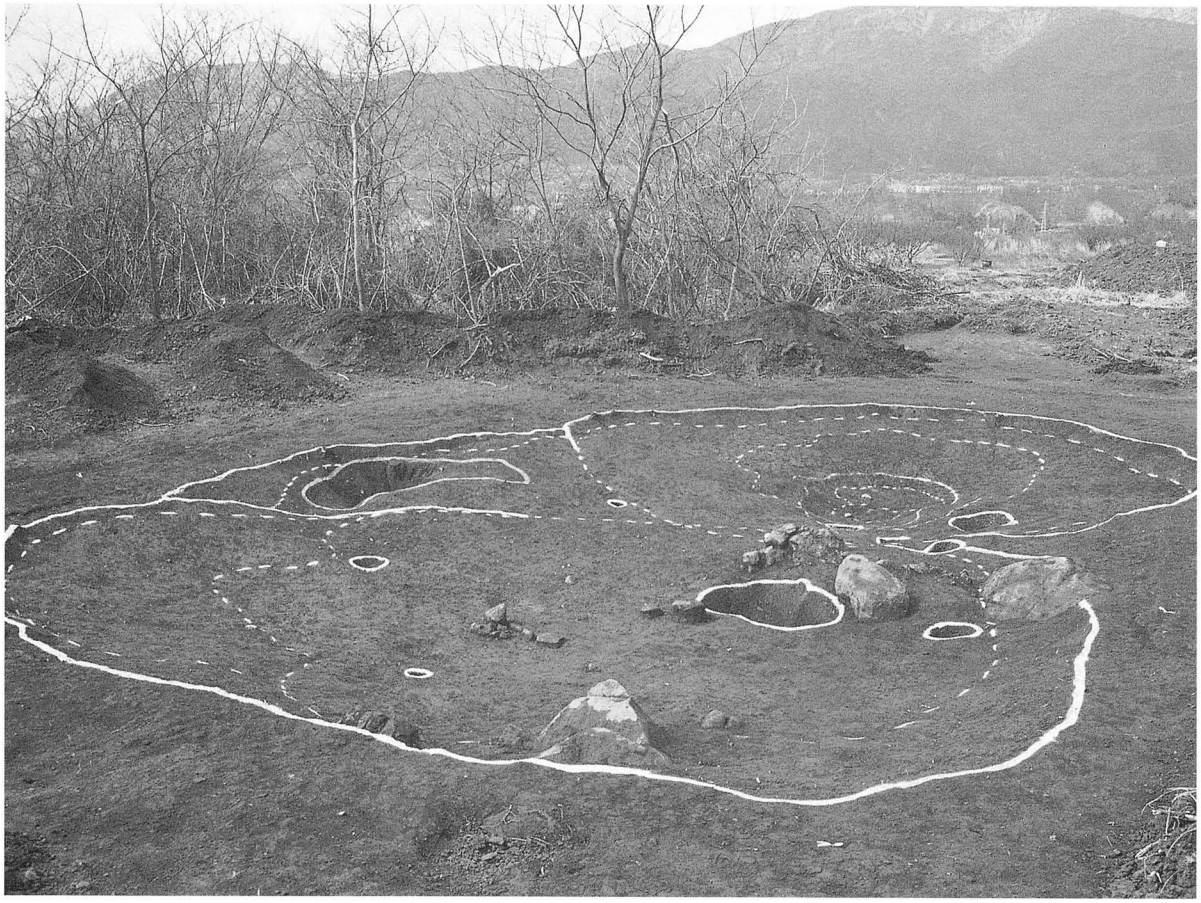
ピット群全景（南東から）



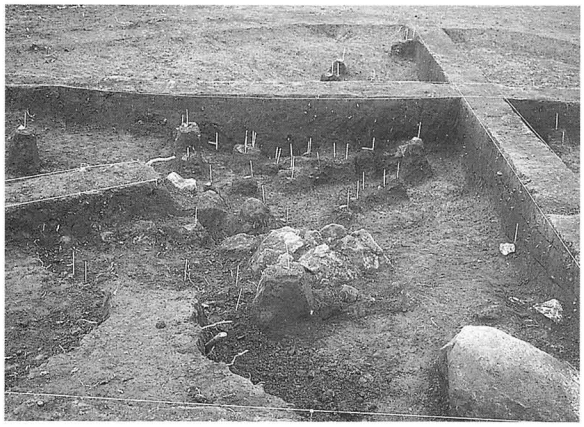
５号溝全景（南西から）

２号溝石積み部（北西から）

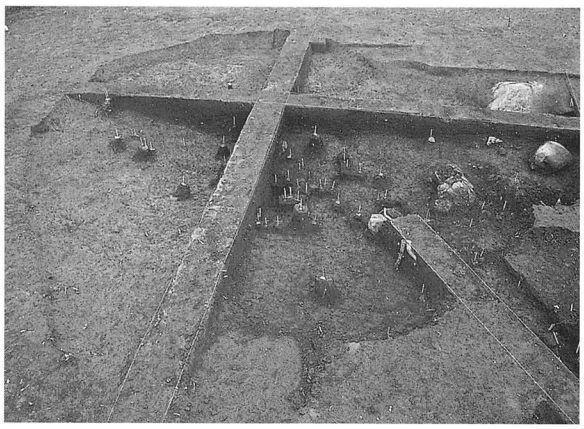
図版２



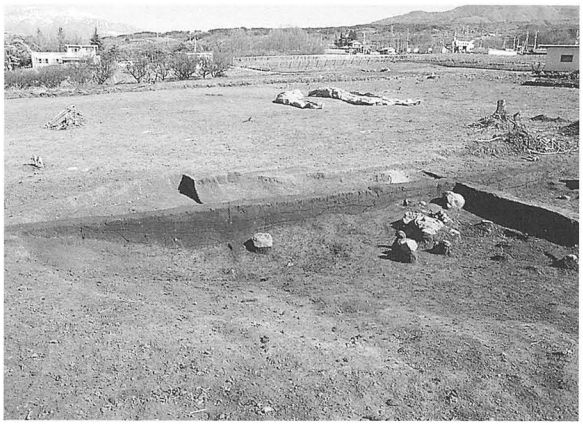
１～３号竪穴状遺構全景



竪穴状遺構遺物出土状況（西から）

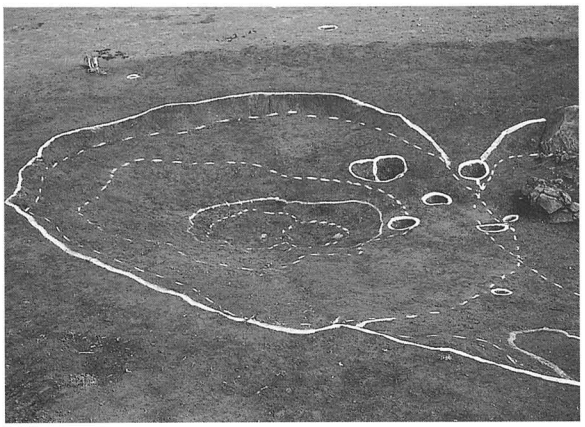


竪穴状遺構遺物出土状況（南から）

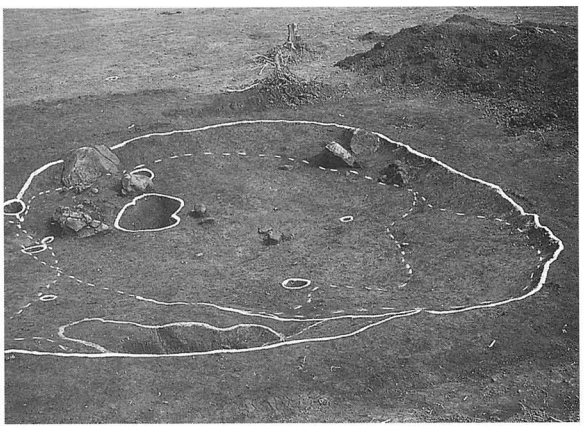


竪穴状遺構覆土堆積状況（南から）

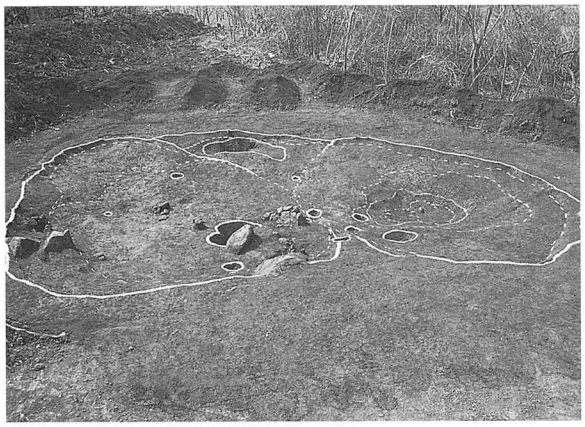
竪穴状遺構覆土堆積状況（東から）



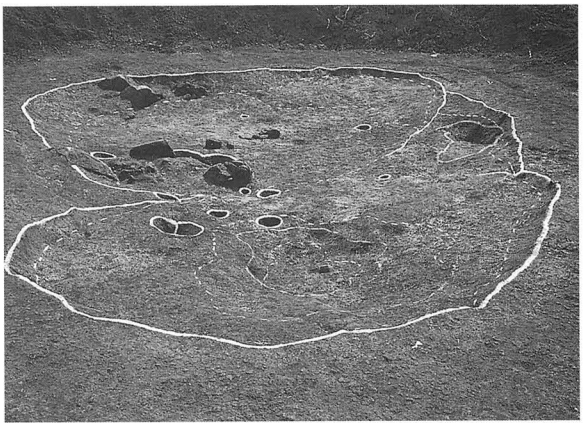
１号竪穴状遺構



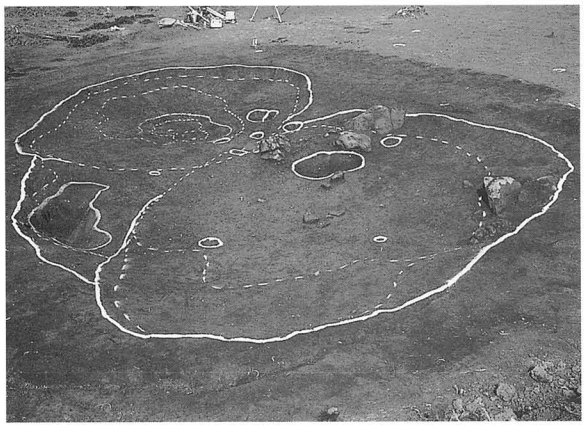
２号竪穴状遺構



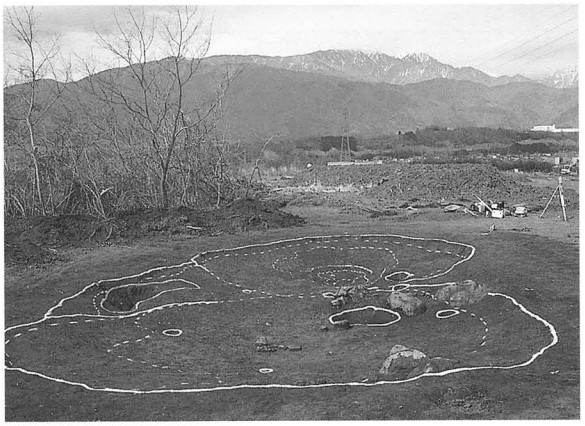
１～３号竪穴状遺構全景（北から）



１～３号竪穴状遺構全景（東から）



１～３号竪穴状遺構全景（南東から）

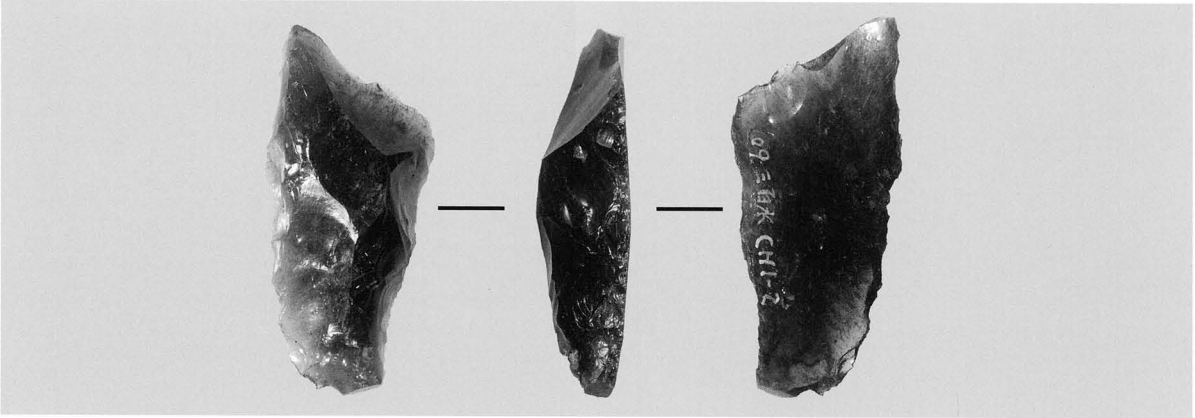


１～３号竪穴状遺構全景（東から）

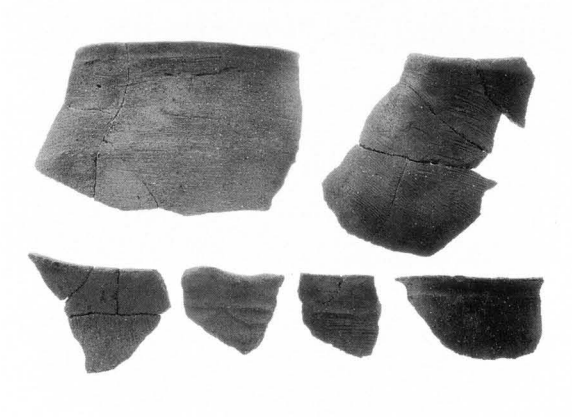
ナイフ形石器出土状況

ナイフ形石器取上げ直後の状況

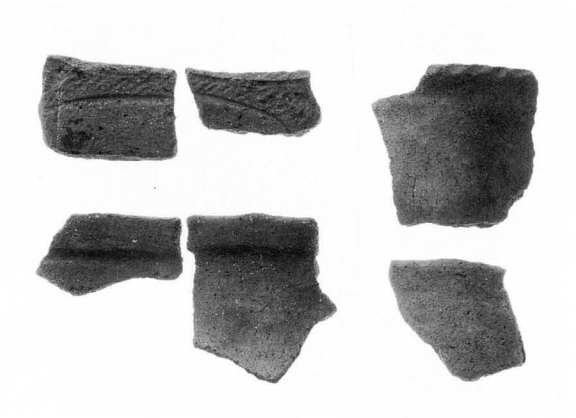
図版４



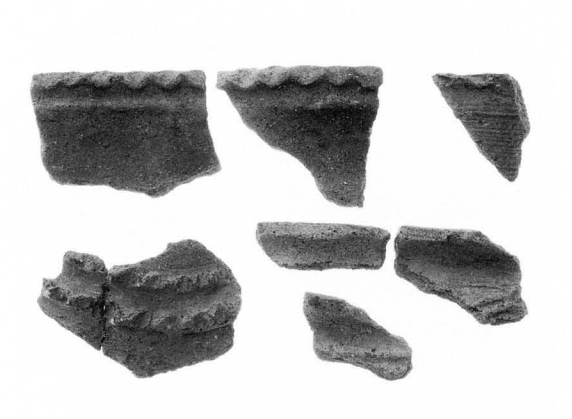
ナイフ形石器



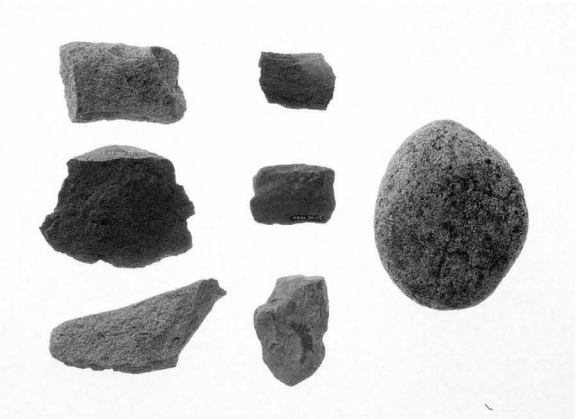
竪穴状遺構出土土器①



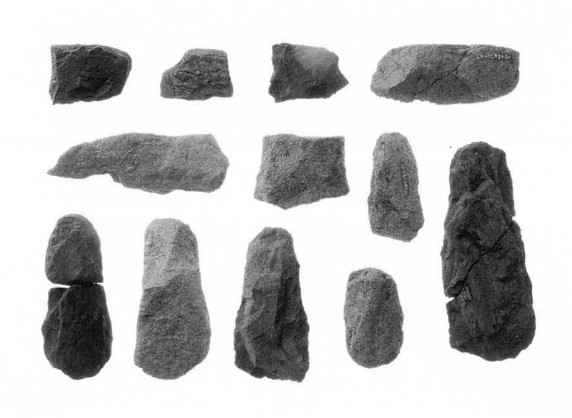
竪穴状遺構出土土器②



竪穴状遺構出土土器③



竪穴状遺構出土石器①



竪穴状遺構出土石器②

竪穴状遺構出土石器③

報告書抄録

ふりがな	さんびゃくすいいせき
書名	三百水遺跡
副書名	造成工事に伴う緊急発掘調査報告書
編著者名	閏間俊明
編集機関	韮崎市遺跡調査会
住所	山梨県韮崎市水神1-3-1
発行年月日	平成23年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
三百水遺跡	山梨県韮崎市穂坂町宮久保地内	19207	H-21	35°72′02″	138°46′12″	H22.2～H23.3	700㎡	造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三百水遺跡	集落跡・散布地	旧石器時代	－	ナイフ形石器	
		縄文～弥生時代	竪穴状遺構	土器・石器	
		中世以降	溝・ピット	貿易陶磁器	

三百水遺跡発掘調査報告書

平成23年３月28日　発行

発　行　韮崎市土地開発公社・韮崎市教育委員会・
韮崎市遺跡調査会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1-3-1
TEL　0551-22-1111（代表）

印　刷　ほおずき書籍株式会社
長野市柳原2133-5